

学科	看護学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学Ⅱ	1	後期	必修	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	「学生の授業評価アンケート」（学科ＡＢの全体100名）を見ると、受講動機としては「必須科目である」ことが100%であって、他の動機は「単位数確保」が4.3%、「関心」「ＧＰＡアップ」が1.1%であった。後期といえども、ほとんどがキリスト教Ⅱに初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1に建学の精神である「感恩奉仕」との関係と目的を再度、最初に明示した。具体的には、総合人間科学の科目として、専門分野の科学の統合する「自己理解」と「人間性」に関わる科学であることを説明した。第2に、評価基準を明示した。授業の質評価を見ると、＜評価基準は明らかであった＞の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「24、26、40」で90%であり、否定的回答の「少し」「全く」は「8、2」で10%、無回答が「0」であった。②「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、授業毎に、受講者が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を提出し、次の授業で教員からコメント等を記されて返却され、全体に関わる事柄については授業中に教員からの詳しい説明によるフィードバックが与えられるというシステムを作り、参加意識を高める工夫の一つとした。③ 総合人間科学の科目であり、専門分野の科目とは異なるが、聖書の古代の状況を現代の状況に翻訳するに当たり、理解力を助けるための具体的なメタファーや 例えば可能な場合には看護と関係のあるものを用い、専門職との関係で理解できるように工夫した。④ 期末試験では、その準備の過程で、受講者が重要なテーマに関して自分の知識を正確なものとし理解をより深めることができるように工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	① 成績を見ると、平均値は85.24点であり、再試対象は0名であった。分布的には、90点以上が22.77%、89～80点が64.36%で、理想的レベル（概ね80点以上）に達した受講者は87.13%であり、79～70点が12.87%、69～60点が0%で、標準レベル（概ね60点以上）のそれは12.8%であった。成績で見え限り、知識理解はほぼ目標に達した。② 100名の学生の＜知識＞＜理解＞に関する達成自己評価を見ると、それぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順（以下同）に「16、35、46」と「14、32、51」で 双方とも97%で、それぞれ否定的回答は「少し」「全く」の順（以下同）に「1、2」と「2、1」で双方とも3%であった。アンケートは試験前の実施であるが、ほぼ成績分布と平衡が取れていた。③ 専門分野での達成自己評価では、思考判断に関する＜検討する力＞＜判断する力＞に関しては、肯定的回答は「8、24、61」と「9、23、62」で93%と94%であったのに対し、否定的回答は「3、3」と「2、4」で双方とも6%となった。④ 専門分野でも＜意欲＞に関して肯定的回答は「6、23、61」で90%であり、否定的回答は「6、4」で10%であった。⑤ さらに専門分野の＜技術＞と＜コミュニケーション、表現力＞の習得では、肯定的回答はそれぞれ「7、20、62」「5、29、55」で双方とも89%であったのに対し、否定的回答はそれぞれ「5、5」と「7、4」で10%と11%であった。⑥ 学生の規範学習に関する達成度の自己評価を見ると、肯定的回答が「6、26、58」で90%であったのに対して否定的回答は「6、4」で10%であった。⑦ ＜職業選択の参考＞では、肯定的回答は「5、18、58」で81%であったのに対し、否定的回答は「10、9」で19%であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本として統合する総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、まず、＜知識＞＜理解＞では3%であった。しかし専門分野の学習においては数値は上がっている。すなわち、＜検討する力＞＜判断する力＞では双方とも6%であり、＜意欲＞と＜技術＞ 習得では10%であった。その他を見ると、＜コミュニケーション、表現力＞の習得では11%、＜倫理・規範＞に関しては10%であった。② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけるための＜知識＞＜理解＞、及び、責任を自覚し倫理に基づく行動ができるようになるための＜倫理・規範＞、これらの分野では否定的回答が3%と10%であった。これに対し、課題を解決のための論理的思考・判断にかかる＜検討する力＞＜判断する力＞、及び、社会のニーズの変化に対応し自ら学び続ける＜意欲＞、並びに、＜技術＞の習得という専門分野と、適切な関係を形成する＜コミュニケーション、表現力＞に関しての否定的回答はそれぞれ6%、10%、10%、さらに11%であり12%未満に留まった。③ 以上から、CPの位置づけから肯定的回答は非専門と非技能表現の分野では90%以上であり、専門と技能表現の分野では90%前後であり、授業内容は妥当であると考ええる。また、DPの位置づけからも、肯定的回答は、非専門と非技能表現の分野と、専門と技能表現の分野とにおいて同様なことが見られ授業内容は妥当であると考ええる。すなわち、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、授業内容は妥当であったと考ええる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	① A B両クラスの全学生からの担当教員へ意見は6件あり、「有難うございます。イエスや神の恵みに気づくことができ、キリスト教に出会うことができて良かった」という肯定的なものが1件と、テストに関して「テスト範囲にプリントの配布がとても遅かった」「もう少し早く配布して欲しかった」等の要望が3件であった。板書については、「字をもっときれいに書いて欲しい」という要望が1件あり、今後、大きさ、明瞭さの向上に努力を続ける。授業は、「自分の大切さに気付く自己理解」と「他者の大切さに気付く人間性」を軸に、聖書から「愛」「赦し」「弱さ」「逆説的自由」とは何かを、現代の状況に照らして問題を投げかけ共に考えるものであったが、「全くためにならなかった」という意見が1件あった。② 学習量の評価を見ると、<1回30分以上の予復習>と<授業の記録>に関しては、向上が見られる。③ 授業の進め方に関する授業の質評価を見ると、<学習の範囲や課題は明らかであった>という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」（以下同じ）の順に「23、26、41」であった。<理解しやすい>という項目では、「10、31、45」であったが、否定的回答の「少しそうでない」「全くそうでない」という回答は「9、5」あり、意見でも「説明がわかりにくい」というものが1件あった。<学生の質問への答を得る機会>では肯定的回答は「12、29、52」で、否定的回答は「5、2」であった。<参加の機会>では、肯定的回答が「9、25、51」で、否定的回答は「11、4」であった。④ 今後も知識・理解を得られるような改善に向け、1) 予復習の方法を具体的に指示すること、2) 毎授業ですべての学生から回収しコメントして返却する「自己学習記録」（A 4）から判断して、分かりにくい箇所はオープンにして理解の共有化を図る。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	① 授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を明確にすることは今後も必要である。評価基準の明確性につき10名の否定的回答があった。今回、テストの範囲の提供が遅いという印象を与えたことと関係しているかもしれない。② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。学生の担当教員へ感謝の肯定的意見は、この反映と思われる。しかしこの科目は実学であって、この科目で習得する知識理解を応用乃至適用する学問が、まさに 学生の専門分野であり、その専門分野での<的確に判断する力>及び<その学びを深めたいと意欲をもつ>ことの基盤となるものである。つまり、この科目の知識理解を増すことは、専門分野での判断力及び意欲の基盤を広く強くするものである。<授業の進め方とその向上について>実学であることの意識化が必要である。③ 以上から、授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、テスト範囲を早めに提示し評価基準を明確にする。授業を進めるに当たっては、板書の内容をプリントして配布すること、予復習の方法を具体的に指示すること、学生から回収する「自己学習記録」から授業の理解の共有に役立つ指導を今後も工夫することが考えられる。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	柳澤 伸一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ジェンダー論	2	後期	選択	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機では、「単位数を確保する」を挙げた者が最多で、「関心のある内容である」を挙げた者は30%に留まった。すべての受講者に初めから積極的な受講姿勢を期待することは難しい状況の中で、新聞記事を始めとして、できる限り最新の情報を教材に使いながら、ジェンダーが現在の女性の生き方に係わる大切な問題であることをつかめるように心がけた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績は、秀が36%、優が45%、良が9%、可が9%で、優以上が大半であった。到達度自己評価では、全ての項目が3.5～3.7で、知的理解に係わる項目、「知識を確認修正したり、あらたにうることができた」は、3.7だった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、総合人間科目の一つで、DP1に係わる位置付けがなされている。受講動機の状況から、動機付けに苦慮する面があったが、成績は全体として良好であったので、内容的には一応妥当であったと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業は、毎回、テーマに沿って、レジュメ1枚と関連資料数枚を配布し、基本的には講義形式で進めた。資料の作成に関しては、最新の新聞記事も使って、ジェンダーをめぐる今日的諸問題が捉えられるようにした。授業中に使用したキーワードについて説明させるレポートを複数回課したことは、理解を整理する上で有意義であった。しかし、予習・復習について、学生任せにしたきらいがあり、課題以外に学習に取り組んだものは過半数を下回った。教員には、予習復習に関しても課題を具体的に与える姿勢が求められた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

講義を通して、ジェンダー問題に関して基本的な知見を与え、関心を高めることは、ある程度達成できた。しかし、アクティブラーニングを促す工夫については、なお改善の余地が大きい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
健康科学実習Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	89

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、からだを動かすことが中心のスポーツ実技の授業であり、学生が積極的に自律心をもって楽しく行えるように、指示は必要最小限にした。また、カロリーカウンターを用いることによって、授業中の歩数や消費カロリーを把握させ、からだを動かすことへの動機づけを図った。 ラケットスポーツ（バドミントン、卓球、テニス）では、練習によって各種スポーツにおける技能を高めさせると同時に、ルールを理解させることによって、学生自身が積極的に試合ができるようにした。また、ダブルスのゲームでは毎回ペアを入れ替えるなど、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。試合後には反省点や次回に向けての改善点（課題）などを実習記録にまとめさせることによって、各種スポーツ技能のさらなる向上を意識させた。 ウォーキングやジョギングについては、自分に合ったペース、友達と会話ができるペースで行わせることによって、無理なく運動が続けられるようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は83.6（±7.3）点であった。成績分布別にみると、90点以上が23%、89～80点が55%、79～70点が19%、69～60点が3%であった。すべての学生が標準的レベルに達しており、約78%の学生は理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が21%、「わりにそうだと思う」が56%、「まあまあそうだと思う」が21%、「無回答」が2%であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値4.0）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が13～16%、「わりにそうだと思う」が48～55%、「まあまあだと思う」が27～36%、「少しそうでないと思う」が2%、「全くそうでないと思う」が1%であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.7～3.9）。 その他、「思考・判断（DP2）」、「意欲・関心（DP3）」、「技能・表現（DP5）」、「態度（DP4）」に関する学生の到達度自己評価についても、平均値はそれぞれ3.7、3.8、3.7～3.9、3.8であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	総合人間科学の「心身と健康」領域に含まれる科目である。ラケットスポーツ（バドミントン、卓球、テニス）の技術練習およびゲームを行った。 「全体を通した」学生の到達度自己評価では、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。また、「技能・表現（DP5）」および「態度（DP4）」に関する学生の到達度自己評価でも、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。これらのことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考ええる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が3.8～4.0であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 本科目では、ラケットスポーツおよびウォーキング・ジョギングを実技として行うため、講義の時のような予習・復習を必ずしも必要としていない。そのことを反映してか、ほとんどの学生は予習・復習を行っておらず、その必要性もないと考えている学生も数人いた。このことに対しては、ラケットスポーツのルールや練習方法などを調べさせ、レポートとして提出させるなどしたいと考えている。 また、日常生活を活動的に過ごすことが、健康や体力の維持・増進につながることを考えれば、学生自身に日々の歩数や消費カロリーを記録させ、それを提出させることは、運動することへの動機づけになると考える。すでに学生の中には授業以外でランニングやジョギングをしていた者や家で家でトレーニングをしていた者もいた。来年度は、このような活動的な学生が更に増えるように工夫したいと考えている。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	概ね目標は達成できたと考える。 今後の課題としては、本実習以外でも積極的にからだを動かす学生の数を増やすことである。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生物と生命科学	1	後期	必修	いいえ	105

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①スタート地点で学生の学習状況に差が認められることから、講義内容は、高校の生物基礎レベルから始め、段階をおって看護師国家試験レベルへと上げるようにした。 ②内容の理解に思考を必要とするものは、説明後に学生同士で意見交換させた。さらに、ミニテストを6回行い講義の復習をさせ、それをレポートとして提出させた。正答を導くまで繰り返し自己努力するよう促した。 ③レポート作成に複数の図書・文献を使用することを評価基準にあげ、図書館を積極的に活用するよう促した。 ④上記のミニテスト・レポートについては、講評のみならず正答を導くまでのプロセスをパワーポイントを使い詳しく解説した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は73.5点(101名)、再履修者平均値57.0点(2名)であった。標準的レベルに達した学生は91%、80点以上の理想レベルに達した学生は32%だった。得点が60点に満たない学生が11%いた。ミニテスト・解説レポートの平均得点は16/20点(得点率80%)で、自由意見からは、学生が図書を使い努力していることがうかがえた。学生の学習量評価からみても1回30分以上の予習を4、5回以上している学生は39%、復習は51%いた。一方、昨年と同様、再履修者はレポートを提出せずレポート平均は3/20点であり課題が残った。 ②学生の知識理解の達成度は84%で、知識理解の到達度自己評価の平均値は4.4と学生が知識を確認・修正・新たに得ることができたと回答している。思考判断の到達度は76%で、学生の到達度自己評価平均値は4.3、専門分野において的確に判断する力を得ることができた自己評価平均値は4.2であった。 ③課題レポートの評価基準は、明確に示すよう心がけた。提出期間も考慮するなど学習時間を充分に確保したためか、授業の質評価平均値はともに4.5であった。また、レポート評価基準に図書館の活用をあげたため、85%の学生が図書・雑誌を、60%の学生が学術データベースを利用していた。 ④今年度は課題レポートの解説を詳細に行い、質問を積極的に受けるなどしたためか質評価平均値は4.4であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①C P、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 看護学科の学生にとり、この科目は高校生物の基礎から大学の関連科目(形態機能学、疾病学など)につなぐ内容を含んでいる。高校生物の基礎学力が充分でない学生にとり、学ぶ内容も多く講義では思考することを要求されるため難しい科目と思われる。しかし、1年次で身につけなければならない基礎知識と思考の基盤を培うために、本科目の内容は妥当であると考えられる。 ②D P、行動目標からみても内容的妥当性 看護師国家試験必須問題を意識した内容としており、学生の知識理解到達度からみても内容は妥当であったと考える。また、今年度は学習量、図書館利用率が増えており思考判断の到達度からも妥当な内容であったと思われる。 ③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①「プリントの図が小さくて見にくいところがあった」との学生の自由意見がある。できるだけ図を大きくするよう改善する。もしできない場合やプリントの印字が薄い場合は、講義中に口頭で説明し、重要な点はプリントに記載させるよう指示をする。 ②「難しい」との学生の自由意見に対しては、高校の教科書を手元において講義内容を確認する、学生同士で意見交換する場を活用する、質問する時間を有効に使うなど学生に促す。 ③今年度の授業改善により、学生の図書利用率・インターネット検索利用率は85%、学術データベース利用率は60%と昨年に比較しアップした。次年度も引き続きこの改善法を継続する。 ⑤ミニテスト・レポート課題の回数を減らし、レポートの振り返りの時間を設ける。こうすることで学生の思考判断の達成度をさらに上げたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	専門基礎科目として専門科目につなぐために必要な基礎知識・理解、そして課題解決に向け思考するプロセス重視の基盤作りは、学生の到達度から見れば達成できたと思われる。思考判断の達成度を上げるための授業改善は上記で述べたように引き続き継続し行っていく。成績の低迷、モチベーションの低下などに悩む学生に対しては、科目担当者としてゼミ担当教員と連携し教育支援をする必要がある。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	矢原 充敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報科学演習Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本授業は、前期の「情報科学演習Ⅰ」の内容を受けて、ICTの幅広い基礎スキル修得を主目的とした授業である。「情報科学演習Ⅰ」で基礎的なスキルと知識は終えているため、本科目では、より実務的なPCを用いた表現手法やデータの活用手法の修得に重点を置いた。 受講動機では、「関心のある内容である」が半数程度に対し、「単位数を確保する」も半数越えとなっている。授業開始当初の学生発言からも「前期からの流れで理解しやすそうである」という声がある反面、「今後の授業や将来を見据えて、より深くICTを学んでおきたい」という声も多く聞かれた。今回は、前年度の反省から前期の「情報科学演習Ⅰ」終了時点で本科目への動機づけについて説明を行ったところから、前年度に比べて「関心のある内容である」の数値が上昇したものと考えられる。しかし、以前「単位数を確保する」の数値が高いことも事実であり、その改善に向けては、さらなる検討が必要である。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は79.3点であり、再試験対象者は0名であった。評価が「優」以上の学生が46%、その他の学生は「良」である結果から、授業目標である理想的なレベルを達成できたといえる。 学生の到達度自己評価でみると、全ての項目で「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」が多く、前期の「情報科学演習Ⅰ」からの継続性を考慮した授業目標を達成できていると考えられる。特に「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は「かなりそう思う」が他の項目に比べて高くなっており、本授業の趣旨目的から授業目的を十分に達成できている結果といえる。 しかし、専門分野との関係性に関する項目では、「まあまあそうだと思う」もある程度数値が上がっており、昨年度の反省から看護科を意識した内容構成としたが、専門分野を意識させるさらなる授業内容の構成が必要であったと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は科目区分「総合人間科学」の「環境と情報」に位置づけられ、社会人基礎力あるいは4年間の学生生活において必要とされるICT基礎スキルと知識を修得する目的で、1年生前期の「情報科学演習Ⅰ（必修）」に引き続き後期に実施される選択科目である。前期の「情報科学演習Ⅰ」で修得した基礎スキルと知識を活用し、より実務的なデータ等の取り扱いや様々なICTするキルの活用手法等を理解させるよう工夫し、学生も所期の成績を収めており、かつ授業評価の結果からも、その内容については妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 専門分野と絡めた質問項目に対して、「まあまあそうだと思う」がある程度数値が上がっている。前年度の反省から看護学科という特殊性を考慮した素材や課題内容等を準備したが、さらなる改善が必要である。また、基本スキルや知識は問題ないが、それらを組み合わせでどのように活かしていくかという点では、その発想力に問題を抱えているが、成績面では内容的に妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、専門分野との関係性について多少改善すべき点はあるものの、内容的妥当性に問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、前年度の反省を踏まえて改善したにもかかわらず、専門分野と絡めた質問項目に対して「まあまあそうだと思う」がある程度の数値が上がっている点は課題を残した。看護学科という特性を考慮し、扱うデータや課題内容等に専門性を意識させる内容をどのように取り入れていくかについては、次年度に向けさらなる検討をしていく。 また、授業以外での如何に活用させるかということも授業のテーマとして取り組んでいたが、授業の課題以外では全く取り組まれておらず、十分な結果を残しているとは言えない状況である。これについても、どのように授業時間以外での活用を促すかについては、再度検討したい。 学生の意見は、特にここで特筆すべき内容は見当たらなかった。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は、科目区分「総合人間科学」の「環境と情報」に位置づけられており、社会人基礎力あるいは4年間の学生生活あるいは社会人基礎力として必要とされるICT基礎スキルと知識を修得することを狙いとしているが、その目標は概ね達成できた。しかし、看護という専門職の中で本科目がどのように関係していくのか問う点では、昨年度から改善する努力をしたものの、学生に十分な実感を持たせることができず、改善の余地を残した。 以上から、専門職を意識させる取扱いデータや課題内容のさらなる改善を図っていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本国憲法	1	後期	選択	はい	68

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機を見ると、「資格取得に必要である」71.2%、「単位数を確保する」27.1%であった。教職必修科目であり、かつ保健師の資格取得に養護教諭11種が必要であることから、看護学科の大半の学生が履修したと思われる。2016年度から選挙権の年齢が18歳に引き下げられたことを念頭に置き、憲法は学生自身の今後の生活や人生に関係が深いことを伝えることに腐心した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	後期試験の平均点は70.79点、再試対象者は1名であった。また、設問がやや難解だったが、理想的レベル(80点以上)に達した者は4名であった。知識理解を文章で論述してもらった問題形式であったが、基本的な知識の理解がやや不十分な答案が散見された。学生による到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値がともに3.7であった。。他の項目の平均値も多くは3.1-3.6の間にある。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ると、本学は「総合人間科学」科目であり、教職指定科目でもある。しかし、履修の際にシラバスを参考にした学生が半数以下であることから、学部学科全体で履修登録の際にシラバスを学生に読ませ、理由の際の参考にするよう、働きかける必要がある。将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、援助の対象者を人権の主体たる個人として理解するための基礎を得るためには重要であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。②DP、行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考え。よって、内容的妥当性には問題ないとする。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値は3.7、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」の平均値がともに3.6であり、レジュメ作成等の努力がある程度報われていると思われる。他方、「学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.0とやや低い。これについては、看護学科・栄養学科同時開講のため、履修者が多数になることから、講義の性質上、学生の参加の機会を設けるのは困難であると考えている。また、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均が3.2であった。これについては、教員の業務の負担にならない程度で、学生の質問を促す方を考えたい。授業の課題以外に具体的に取組んだ学習について「教科書の通読」「授業の配布資料に自分が図書で調べたことを追加して書いた」という学生がいる一方で、授業以外に学習していない理由として「持ち込みOKのテストだから」「他の授業の課題があったから」「することがなかった」「必要性が感じられなかった」という意見が見られた。これについては、予習・復習の具体的な仕方について、今後の講義で説明していきたいと考えている。学生の意見として、「印象に残ったところは教育を受ける権利・死刑制度です」「ペンギンがかわいかったです」との意見の一方で、「みんなの前で1人の人の元について注意するのはかわいそう」との意見もあった。これは真摯に講義に臨んでおらず、注意されている自覚のない学生に対して、個別に注意するためにやむを得ず行ったものであり、批判は全くの筋違いである。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、豊かな人間性と社会性を支える幅広い教養としての基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考える。今後は予習・復習の習慣の定着と、学生からの質問を促す方を検討したいと考えている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語Ⅱ	1	後期	選択必修	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	昨年度、看護学科の同じ授業を担当した経験から、看護に関連した分野を扱う教科書は、本学看護学科に入学してくる学生の英語力とあっていないものが多い（難しすぎる）と判断し、一般的な内容を扱う教科書を選定した。授業準備においては、高校までに修得すべき基本的な英語力の定着が必要であろう、と考え、また昨年実施した授業解説動画は取りやめて（個人単位で集中して解説を聞くことができるメリットはあるが、その解説をどれほど学生達が納得して理解したかの把握がしづらい面があったため）、普通教室で直接語りかける形をとった。その際、解説動画ソフトの画面と似たような利便性を求めて、最新型のプロジェクターを購入し、その画面を見ながら対面で解説する方法を試みた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業中の、こちらの質問に対する学生達の反応を見ると、高校までの基礎的理解が不十分だと感じる事が多く、教科書を一般的内容で、易しいレベルのものに変更したのは、正解だったと思った。しかし、授業アンケートには、「高校時代と同じことをやっていて、意味がない」「看護と関係がない」「内職をしていた」というコメントが散見された。 この点は、非常に難しい部分である。確かに看護学科の学生には、入試偏差値でいうと英語学科よりも高い学生が多く、その点では英語に対する基礎学力は、こちらが想定するよりも高い可能性はある。しかしその一方で、極端に英語に対する興味が薄く、基礎力も整っていない学生もいて、英語に対する意欲も基礎力も大きな隔たりがある。前者のような学生は、「大学での英語」というものに期待していたようだ。 さらにクラス50人以上という人数は、語学の授業として極めて多すぎるという現実もある。ただ、中には、「なんとなく先生がやっていることは面白い」というコメントもあり、こちらの熱意は一部の学生には伝わっていたと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	なんとも言い難い。 (看護学科に入学して、高校時代よりも英語力を伸ばそうという位置づけなのか、それとも何となく4年制大学の教養の授業には、英語はあるものだ、というお飾り的な位置づけなのか、それによってどのような授業を展開するかは変わる。もし後者であれば、授業をする意味があまり感じられないし、入試の科目にも英語は不要に思える。)
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

特になし

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

この授業を通じて、看護学科の学生達と知り合いになれることは教育者としての幅を広げることにともつながり、好ましいことであると思う。おそらく求められていることは、なすべきことは、実際には英語力の向上にはならなくても、英語の勉強をして楽しかった、良かった、という前向きな気持ちを残すことだろうと考える。ひとクラス50名、英語に対する意欲も基礎力も差が激しい集団に対しては、なかなか難しい目標であるが、今後また機会があれば、できる工夫をしてみたい。できる工夫はこの授業でも行ったことは述べておきたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	James Hicks

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英会話 B	1	後期	必修	はい	50

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course focused on oral communication, specifically vocabulary, speaking, and listening skills in a medical setting. The textbook was Vital Signs 1 (Nan'un-do) which included functional and grammatical targets in a variety of medical contexts. The students engaged in active learning exercises, including dialogue practice, information gap activities, listening challenges, and extensive role plays.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students were assessed on 4 criteria (passive participation 30%, active participation 23%, vocabulary building 27%, and a final test 20%). The majority of assessment criteria focused on showing evidence of incremental improvements in vocabulary and communication skills. The majority of students in this course earned a grade in the 80-88 range.					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Students showed progress in their interest and attitude towards English. Students are almost always quite eager to have an opportunity to experience active learning exercises and apply English in medical contexts. The specific skills acquired were functional, in terms of medical vocabulary use and common grammar patterns, and attitudinal, in terms of new approaches to learning English. As a result, students acquired new knowledge and understanding in this course (DP1).
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

My main goal for the next academic year will be to continually transition the Nursing Departments to a medical English-oriented curriculum. This will include integrating increasingly relevant exercises and activities to the new curriculum and creating new assessment tools. Blended learning will be implemented wherever appropriate.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Creating assessment tools to encourage acquisition of medical vocabulary for use in medical situations will require a strong vocabulary component. This will continue to be achieved through weekly assessment and blended learning opportunities. Vocabulary use will be solidified through frequent role-plays and group exercises involving basic grammar and medical vocabulary.

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	Marne Saddy

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英会話 B	1	後期	必修	いいえ	52

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	This was an oral communication class which specifically focused on speaking and listening skills. The textbook, Vital Signs (NAN' UN-D0)), focused on building linguistic confidence through basic functional and grammatical targets in a variety of hospital contexts. The students engaged in active learning exercises such as dialogue practice, information gap activities, listening exercises, and practical role plays. They also spent a considerable amount of time building vocabulary before each of the unit lessons.
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Assessment was based on attendance 15%, class work 25%, homework 10%, vocabulary tests 30% and a final comprehensive test 20%. Students scored well on most areas of assessment, with the majority of students earning a grade in the 80-90 range.					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Students worked hard to study medical vocabulary lists and fulfill the homework requirements every week. Most students showed progress in their interest and attitude towards English, and seemed to appreciate the usefulness of each lesson as it related to their major area of study. Lessons were short and focused, so students could understand and recognize their own individual improvement with each new functional target. The specific skills acquired were not only functional, in terms of basic vocabulary use and common grammar patterns, but also attitudinal, in terms of new approaches to learning and basic communication skills.
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

I am extremely happy with the results achieved through the current textbook. My main goal for the next academic year will be to supplement each lesson with outside or student generated materials relating to the topics of each unit, and to reinforce and maintain learned vocabulary through specially developed online resources.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

Current assessment is heavily dependent on class participation and performance on weekly vocabulary tests. Since a considerable amount of homework is based on vocabulary and grammar self-study, students need to continually be encouraged and monitored. Reminders to encourage note taking and keep a careful record of homework obligations may help maintain the students study objectives throughout the course.

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康と栄養	1	後期	必修	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機の回答では、「必修である」という理由が100%で、「関心のある内容である」と答えたのはわずか2名（2.2%）であった。この結果からも推測されるように、看護学科の1年生の「栄養」に関する関心は低いと思われるので、「栄養」についての関心・知識がまだ十分でないことを前提に、「栄養」と看護学生の専門分野である「医学・医療・看護」の橋渡しをすることを念頭において講義した。「栄養」の基本となる基礎栄養学、食品学、臨床栄養学の分野をそれぞれ専門とする三人の教員によるオムニバスの講義として実施した。 ②授業の最初に学習準備のためのオリエンテーションとして、シラバスの各項目について説明し、授業計画表を配付した。また、授業の最後に重点項目・キーワードを列挙したプリントを配付した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終成績の平均点が、80.5±9.4点で、担当者別の平均点では、食品分野が特に高かった（基礎栄養74.8、食品88.0、臨床栄養78.1）。秀（90点以上）が21名、優（80～89点）が34名、良（70～79点）が33名、可（60～69点）が13名で、不可（60点未満）はいなかった。理想的レベル（90点以上）を超えたものが全体の20%強、標準的レベル（70点以上）に達したものは全体の85%を超えていた。昨年との比較では、平均点がかなり上がった（昨年：71.2±11.7点→今年80.5±9.4点）。内訳については、成績上位者が大幅に増加し、成績下位者が減少した（昨年：秀3名、優24名、良47名、可26名、不可0名）。 授業評価アンケートにおいて、到達度自己評価の関連項目のすべての平均点が3.6以上であったこと、「自分なりの目標を達成した」の項目で「まあまあ達成した」レベル以上を回答した学生が1名を除いて全員であったことより、教育目標は達成できていると考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップの位置づけからみた内容的妥当性 本科目は看護学科の教科のなかで「専門教育科目」の「看護を学ぶための基礎」として位置づけられ、必修科目である。講義では、特に、生活習慣病や栄養補給などとの関連において、臨床の現場における「栄養」の重要性について強調している。期末試験では、学生も好成績を修めていることから、内容的に妥当だと思われる。 ②DP、行動目標から見た妥当性 授業準備にも記載したように、看護学科の1年生に対する講義科目であるため、医学・医療に関連付けた「栄養」の基礎知識の習得と理解を目標としている。内容的には妥当であったと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①以前の授業評価の自由記述で、複数の教員で講義するため授業のやり方が異なる点が問題として指摘されていたが、最近各教員の最初の授業で講義のためのオリエンテーションを行った上で、同一教員による5回分の講義をできるだけ連続して講義するようにした。また、配付プリントのサイズなど、統一できるところはできる限り統一するようにしたこともあって、今回はそのような指摘はなかった。 ②本科目は「栄養」に関する基礎知識の習得を目標としているので、授業評価の指標4（学生の授業参加の機会）については、時間的制約もあって、授業の中に取り入れるのはかなり困難であるが、授業内容についての質問など、授業参加の機会をできるだけ作っていききたい。 ③授業中の私語については、かなり改善された。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①本科目の目標である、「栄養」に関する基礎知識の習得については、期末試験の成績が良好であったことから、おおむね達成できたと考える。 ②「栄養」に関する広範な内容を短時間で講義することになるので、どうしても一方通行の講義になってしまうが、なるべく質問する時間を設けて、授業参加の機会をつくるようにしたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床栄養学	2	後期	必修	いいえ	98

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	臨床栄養とは、傷病者のさまざまな病態や栄養状態等に応じた総合的な栄養管理を行うことであり、病院で実施される栄養管理は、チーム医療を基盤にして行われるものであることから、看護師として、臨床栄養の基本を理解しておくことは必須である。本科目では、栄養補給法および病院における栄養管理の概要ならびに主な疾患の病態や栄養状態に基づいた栄養ケアについて解説し、臨床栄養管理の実際について理解することを目的としている。 本科目は卒業必修科目であり、大多数の学生の受講動機は『必須科目である』との理由であった。また、学修準備性については、約半数の学生がほとんど準備をせずに受講し、受講後の復習も十分でなかった。また、自発的学習に取り組んだ学生においては、全体の10%と少なかったものの、2015年度の約4%に比し、若干増加した。いずれの理由においても、学生は多忙を極めていることに加え、他科目の課題に取り組むことに精一杯であったためと考えられる。実際、課題以外に学修に取り組めなかった理由として、本理由が挙げられている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の本試験成績の平均値は87.4 (±5.3) 点であり、本試験合格者は100%であった。実際には、4名(4%)が標準的レベル(70点以上)を達成しており、理想的レベル(80点以上)は91名(95%)にも上った。試験内容としては、全て講義内容からの出題であり、学生の到達度自己評価では、90%以上の学生が専門的知識および技術の修得ができたと回答していたことから、学生の到達度の高さが実際の成績へと結びついたものと推察される。以上のことから、本科目における教育目標は達成できたものと予想される。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、栄養補給法および病院における栄養管理の概要ならびに主な疾患の病態や栄養状態に基づいた栄養ケアについて解説し、臨床栄養管理の実際について理解することを目的としている。入院患者の栄養管理はチーム医療のもとで実施されており、近年、栄養サポートチームなどの活動を通して栄養管理を行う中で、看護師の専門性を発揮することが求められている。つまり、患者の生活を視野におかなければならない看護師にとって、臨床栄養の知識は必須であるといえる。このことは、学生の達成度自己評価の『職業選択』の項目において、大多数の学生が参考になったと回答していたことから、臨床栄養の知識が看護師にとって必要であることに対する理解は深まったことと推察される。学生の達成度自己評価においても、90%以上の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答しており、試験成績においても、大多数の学生が好成績を修めていたことから、内容的妥当性については問題ないものとする。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題がなかったことに加え、自由記述では『わかりやすかった』『興味を持つことができた』等の肯定的意見が多かったことから、本科目の内容等についての課題はないものと推察され、今後も引き続き、高い達成度を目標にしたいと考える。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、栄養サポートチームなどの活動を通して栄養管理を行う中で、看護師としての専門性を発揮することのできる能力を養い、臨床栄養管理の実践について理解することを目的としている。大多数の学生が好成績を修めており、また、学生の達成度自己評価においても、90%以上の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答していたことから、本科目の内容等についての課題はないものとする。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	工藤 二郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病学総論	1	後期	必修	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生は1年生であり、医学用語を初めて学習するため、できるだけ平易な説明をした。 教科書が画像が多いものであったので、画像の意味を細かく説明した。 毎回シラバスを確認、教科書の進捗度合を説明した。授業終了時には予習を促した。ただ、シラバスを参考にしたという学生は41%に留まった。 1 回以上予習をした学生は49%、復習した学生は58%であった。 キーワードのノートを毎回チェックし、書写を促し、また漢字の説明をした。パワーポイントのプリントや単語の整理ノートなどの配布物を利用して記録をとった学生は88%であった。 パワーポイントのプリントは国家試験に沿うような画像を多く紹介した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	約95%の学生が期末テストで合格点を獲得できた。再試を受けた学生は4名であった。得点も自然な分布をしている。学生の学習量については、他の授業の課題があったため時間がなかった、余裕がなかった、忙しい、手が回らないなどの意見が多く、長時間の学習が困難だった状況が想像できた。ただし、各種の形式で作成した期末試験問題には満遍なく答えられていた。 課題以外に学習に取り組んだかについて、15の自由記述があり、病理学整理ノート、ワークの穴埋め、テキスト、学習ノート、他の教科に関連させた、紙にまとめたなどがあり、熱心な学生もいたことがわかった。また、図書館利用8名、データベース利用3名、インターネット検索10名などの記載があった。授業内に理解できたとする学生もあり、優秀な学生がいた可能性もある。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は臨床の土台となるような重要な科目であり、国家試験でも多くの試験問題と関連する。必須科目とし、客観評価を行って不合格者も再試験や再履修で理解度を高める必要がある。学習到達度の自己評価は95%がまあまあそうだと思う以上であった。内容として妥当と考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

担当教員に対して、体験したことや考え方が興味深かったとする意見があり、具体的なことを話したのは良かったのであろうと考える。今後は、例えばノートを作る、図を書かせて理解させるなどの働きかけが必要な学生がいたかもしれない。学生からの質問は見当たらない。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

達成度としては良いレベルに達したと評価している。ただし、教科書や講義は臨床のごく一部にすぎず、実際の病人に対応するにはさらにレベルを上げる必要がある。実習、演習、講義の学習組み合わせで自分のレベルを測定するよう促したい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保健統計学	1	後期	必修	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	疫学・保険統計学は人間集団における健康や疾病の状態を観察および解析して、それらに影響を与える要因を明らかにし、疾病の予防やコントロールを行うおうとする学問です。社会医学の基礎であり、臨床医学でも EBN: Evidence Based Nursing（根拠に基づいた看護）を行ううえで疫学の知識が必要です。また、保健師の業務には密接に関連する領域であり、保健師国家試験にも関連する問題が多く出題されます。 学生にとって馴染みの薄い分野ですので、自著の教科書「看護学生のための疫学保健統計」を使用して基礎から分かりやすく解説するように心がけました。授業の最初の15～20分は前回の復習にあてるようにしました。 「保健統計学」の授業では、疾病頻度の指標、保健統計調査、スクリーニング、統計学の基礎について解説しました。保健師業務には必須の内容であり、保健師コースを選択しない看護学生にも大切な内容であることを強調しました。 授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が大多数ですが、「資格取得に必要なである」「関心のある内容である」の回答も見られます。看護師や保健師になる自覚や国家試験に意識を持ち始めた表れと考えます。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験の平均値78.5点、中央値80点でした。最高値95点で、理想的レベル（80点以上）に到達したひとが101名中51名でした。一方、最低値40点で、60点未満は5名でした。授業貢献度を加味した授業評価を行い、4名を再試験の対象としました。再試験では受験した全員が60点以上でした。このように学生間で成績のばらつきはありましたが、最終的に標準レベルには到達していると判断しました。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、馴染みのない分野にも拘らず、全ての項目において中央値が4.0以上でした。皆さんが必死に勉強した表れだと思います。ただ、「疫学」に比べて全般的に自己評価が低いのは、講義のコマ数が多くて勉強すべき範囲が広がったためと考えます。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。社会医学の基礎であり、臨床現場でのEBNや看護研究などでも必要な知識です。ここの内容を理解していないと、今後の看護学科での勉強、看護師・保健師国家試験、将来の看護師・保健師としての仕事において支障を来します。 試験結果、受講生の到達度自己評価などからみても、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけにおいて内容的妥当性に問題はないと考えます。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、全項目で中央値が4.0以上でした。特に「説明は理解しやすかった」の項目では平均値4.5と高い値でした。ただ、「疫学」に比べると評価が低く、勉強すべき範囲が広いことに対する授業の工夫が必要と考えています。また、「学生が参加する機会が作られていた」の項目は「疫学」と同様に平均値4.1と低い値でした。この点も次年度に向けた課題と考えます。 また、学習量をみると、30分程度の予習を2回以上行っている受講生は三分の一程度で、復習を行っている受講生が約半分でした。昨年度より予習復習する学生さんが増加しており、大変嬉しく思います。また、図書館やネットを利用して勉強したひとは少数派でした。この点も学生が興味を持って自ら勉強するような課題を出すなど、次年度に向けた課題と考えます。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は保健師コースを選択するひとはもちろん、看護学科の全ての学生さんに必要な内容です。学生さんによる成績差はありますが、標準的レベルに到達することができたと判断しました。 勉強すべき範囲が広いので、学生さんの興味を持続させる工夫が必要と考えます。また、「疫学」と同様に学生参加型の授業形態を取り入れることも次年度の課題です。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疫学	1	後期	必修	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	疫学・保険統計学は人間集団における健康や疾病の状態を観察および解析して、それらに影響を与える要因を明らかにし、疾病の予防やコントロールを行うおうとする学問です。社会医学の基礎であり、臨床医学でも EBN: Evidence Based Nursing（根拠に基づいた看護）を行ううえで疫学の知識が必要です。また、保健師の業務には密接に関連する領域であり、保健師国家試験にも関連する問題が多く出題されます。学生にとって馴染みの薄い分野ですので、自著の教科書「看護学生のための疫学保健統計」を使用して基礎から分かりやすく解説するように心がけました。授業の最初の15～20分は前回の復習にあてるようにしました。 「疫学」の授業では、疫学の歴史と疫学研究について解説しました。疫学研究の知識は看護研究でも必要であり、保健師コースを選択しない看護学生にも大切な内容であることを強調しました。 授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が大多数ですが、「資格取得に必要なである」「関心のある内容である」の回答も見られます。看護師や保健師になる自覚や国家試験に意識を持ち始めた表れと考えます。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験の平均値79.6点、中央値80点でした。最高値100点で、理想的レベル（80点以上）に到達したひとが101名中59名でした。一方、最低値48点で、60点未満は6名でした。授業貢献度を加味した授業評価を行い、4名を再試験の対象としました。再試験では受験した全員が60点以上でした。このように学生間で成績のばらつきはありましたが、最終的に標準レベルには到達していると判断しました。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、馴染みのない分野にも拘らず、全ての項目において中央値が4.0以上でした。特に「知識を新たに得ることができる」の中央値は5.0でした。皆さんが必死に勉強した表れだと思います。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。社会医学の基礎であり、臨床現場でのEBNや看護研究などでも必要な知識です。ここの内容を理解していないと、今後の看護学科での勉強、看護師・保健師国家試験、将来の看護師・保健師としての仕事において支障を来します。 試験結果、受講生の到達度自己評価などからみても、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけにおいて内容的妥当性に問題はないと考えます。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、5項目中4項目で中央値が5.0でした。特に「説明は理解しやすかった」の項目では平均値4.8と高い値でした。授業の進め方については満足度が保たれてい考えます。ただ、「学生が参加する機会が作られていた」の項目は平均値3.9と突出して低い値でした。この点はグループワークなどを行うなど、次年度に向けた課題と考えます。 また、学習量をみると、30分程度の予習を2回以上行っている受講生は三分の一程度で、復習を行っている受講生が約半分でした。昨年度より予習復習する学生さんが増加しており、大変嬉しく思います。また、図書館やネットを利用して勉強したひとは少数派でした。この点も学生が興味を持って自ら勉強するような課題を出すなど、次年度に向けた課題と考えます。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は保健師コースを選択するひとはもちろん、看護学科の全ての学生さんに必要な内容です。学生さんによる成績差はありますが、標準的レベルに到達することができたと判断しました。 学生参加型の授業形態を取り入れることが次年度の課題と考えます。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	谷川 弘治

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床心理学	2	後期	選択	いいえ	68

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	看護師に必要な臨床健康心理学の基礎知識を身につけ、臨床の場での支援の基本を考えることをねらっている。また、8コマと短いため基本資料を第1回目に配付するようにした。 「かわりながらの患者理解」という視点を取り上げて論じていることもあり、関心や学習意欲は高い。看護学生としてなじみのない概念（「リフレミング」「非機能的な思考」「自己効力の期待」「機能分析」）などについては留意するようにした。 毎回、「質問・感想・意見」を回収し、i 質問への回答、ii 学習を深める上で参考となる感想や意見をまとめたプリントを、次の回に配付した。さらに中間テストを配置し、復習を促すようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1. アウトカム評価：本年度の履修登録者は68名（昨年度32、一昨年度51）と増加した。そのうち65名が最後まで受講し、追再試後に64名が単位認定を受けた。 定期試験を終えてのアウトカムは平均点68.5点（昨年度67、一昨年度71）と例年並みであった。成績のばらつきが大きく、65名中10名が再試験となった。 定期試験の結果からは、インフォームドコンセント（アセント）やQOL、病気や障がいの受容などの基本的な事項を、複雑な医療環境において捉える視点の獲得に課題が認められた。学生の授業評価の関連項目を昨年度と比較した。①自分なりの目標を達成：3.4→3.5（看護学科平均：3.9）②DP1-2関係：知識を確認、修正したり、新たに得る：3.8→3.6（同4.1）③DP1-2関係：事象を理解する視点や考え方を得る：3.5→3.6（同3.9）④DP2-1関係：自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力：3.5→3.6（同3.9）⑤DP2-1関係：自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力：3.4→3.6（同3.9）全般に昨年度並みであるが、看護学科平均が上昇傾向にあるなかで不十分であったと思われる。 以上から教育目標は「やや達成されなかった」と判断した。 2. プロセス評価：毎回の「質問・感想・意見」には、学生の自らの経験に基づいて、さまざまな意見や疑問が寄せられていたことから、参加度が高い学生がいる一方で、教員の支援によっても私語が改善しない学生も少なくなく、授業フィールドの課題への集中度は、昨年度よりも低下していた。学生の授業の質評価は昨年度並みか改善もみられたが、看護学科平均の上昇には追いついておらず、課題が示されたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	概ね妥当と思われる。ただし、1単位8コマでは内容の咀嚼は十分とは言えず、今後もカリキュラム担当者とは協議を続けたい。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

4. のプロセス評価に示したとおりである。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

成績のばらつき、授業評価の状況は、学習準備性の変化の把握が不十分であった結果と推察される。履修比率の高まりも影響しているように思われた。当初に実践的な内容であることをアピールし、ときどきの学習状況のチェックなども交えて、臨機応変な対応に努めたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	工藤 二郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
医療と倫理	1	後期	選択	いいえ	87

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	医療と関係する倫理的諸問題を講義した。国家試験にも、たまに必須問題で出題されることがあるのでポイントを押さえるよう注意した。 毎回シラバスを説明して講義を開始した。シラバスを参考にしたと答えた学生は60%であり、もともと関心があったようである。 できるだけ現実の事例を引用して講義を行った。 毎回講義で扱った問題について議論を促し、具体的な作文を課し、配点した。結果をフィードバックした。 パワーポイントのプリントは文字を少なくして画像を多く紹介した。いくつかの教科書を紹介した。 大教室だったが、集中するように促し、学生の注意は途切れなかった印象である。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	講義後に講義内容の応用問題を出題し解答させた。この結果、ほぼ全員が毎回講義内容を誤解無く理解していた。作文も内容や文体において低くないレベルを保っていた。得点分布は自然であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	この科目は選択科目で、5限目の授業であるが84%の学生が受講し、強い動機で参加したと考える。「看護倫理」が必修なので、本講義は内容として妥当と考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生から、看護師になる上で大切なことを考える良い機会になった、勉強になった、看護技術だけでなく、倫理的部分も大切なのだとわかったなどの意見があり、真面目に取り組んだ学生が多かったと考えている。参考書紹介なども行ったが、図書館を利用した学生は84名中4名、データベース利用3名と少なかったが、ネット利用は17名と多めであった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学生の達成度を見ると、総括的には成功していると考えます。医療倫理は医学の進歩に追いつけないような例も出現してきており、ガイドラインの改定も多数あり、学生への紹介が十分かどうかを常に検証する必要があると考えています。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	小田 日出子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎学習ゼミⅡ	1	後期	必修	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・受講動機については、前期「基礎学習ゼミⅠ」に続く「必修科目である」(100%)ため、学生は履修せざるを得ない。少数だが「資格取得に必要である」(2.1%)「関心のある内容である」(3.2%)、また「単位数を確保する」(4.2%)、「GPAをあげる」(2.1%)、「友人が履修している」(1.1%)を挙げた学生もあり、学生の興味・関心・やる気を持続させること、教員間の共通理解を図る事前の打ち合わせを丁寧に行うことに留意し、授業を進行した。 ・履修後の学生からは「ディベートのやり方やディスカッションする力がついた」「グループのみんなと意見交換できて楽しかった」「進んで発言するようになった」「大変だったけど、座学では学べないことをたくさん学べた」「チームで協力することができた」「考える力が身についた」「ドリームマッチに出られて嬉しかった」「自分の課題が見つかり気合が入った」等の意見が聞かれた。 今年度の課題としていた点（効果的な課題の提示、学生が自主的に予習に取り組めるような工夫・仕掛け等）については、 ・助産別科との協同授業が困難となったこともあり、ディベートの論題を見直し、社会的にも話題性のあるテーマ「人生の最期は家で迎えるべき」に変更した。 ・昨年度の「論題：全妊婦は出生前診断を受けるべき」でドリームマッチを戦った2年生グループに試合（立論・質疑・反論・総括）の実際を再現してもらい、途中、教員による試合全体の流れやパート毎の解説を行いながら、1年生がディベート・マッチの全体像をイメージできるよう工夫した。 ・「基礎学習ゼミⅠ」の学びを活かした効果的な「調べ学習」が行えるように、論題を決定するについては、事前に図書館員にも相談し、本学図書館利用での文献検索が可能なテーマを選定するよう配慮した。 ・学習準備性を高めるための工夫として、ディベートマッチの「審判の視点」については、看護学科LMS (kaname.net)を利用した動画による反転学習を取り入れた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・受講動機としては、一部「単位数を確保する」(4.2%)、「関心のある内容である」(3.2%)、「GPAをあげる」(2.1%)、「資格取得に必要である」(2.1%)、「友人が履修している」(1.1%)を挙げた学生もいたが、「必修科目である」(100%)本科目を、学生は履修せざるを得ない。 ・学修到達度について、学生の自己評価は、「自分なりの目標を達成した」(平均値4.1、中央値4.0)と高かった。具体的には、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.3)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.1)、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」(4.1)及び「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(4.1)が中央値を上回っていた。また、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(4.5)、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」(4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(4.0)も総じて自己評価は高かった。 ・授業の質については、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」(4.7)が最も高かった。次いで「テスト」、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」(4.4)、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかだった」(4.4)、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」(4.4)、「説明は理解しやすいものであった」(4.2)で、いずれの評価も高かった。 ・成績評価については、授業参加度(16%)、記録物(24%)、学修成果(60%)による総合評価としているが、最終成績は、クラス平均 83.1(±5.49)点(最高94点、最低69点)、成績内訳は秀16名、優66名、良18名、可1名で、標準レベルを大きく上回っていた。 以上の結果より、初年次教育として位置づけた「基礎学習ゼミⅡ」において、学生の主体的学修を促す教員側の取り組みや働きかけは、本科目で学生が達成すべき目標の達成に繋がっていたと考えられ、教育目標は「達成された」と判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、看護の「専門教育科目」のうちの「看護実践の基本」に位置づけられた科目であり、大学での学び方やそれに必要な基本的スキルの修得を目的とする。毎回の授業（ディベート・マッチに向けての準備）に意欲的に取り組む学生たちの様子やディベートマッチでのパフォーマンスからは、初年次教育としての「基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ」が通年の目標としている。1.主体的に学ぶための基礎的スキルの強化・鍛錬、2.社会人基礎力の育成・強化、3.グループ活動を通しての自己の客観視と課題発見、4.コミュニケーション力の向上、5.課題解決力の獲得・強化など、主体的学習者としての学生の課題発見力、課題探求力、さらには課題解決力の獲得・強化に繋がっていたと考える。もとより、看護学科に入学してきた時点で、学生個々の「受講動機」即ち「学修準備性」は高いと言えるし、実際、シラバスの記載を参考に(70.8%)、予め授業の計画を立てた(54.2%)学生が半数以上いたことから、その状況は窺えた。学習到達度の自己評価においても、DPそれぞれに繋がる各項目について、平均して高い水準を維持できていた。成績評価は、授業参加度(16%)、記録物(24%)、学修成果(60%)による総合評価で行っているが、クラス平均 83.1(±5.49)点(最高94点、最低69点)、成績の内訳は、秀16名(15.8%)、優66名(65.4%)、良18名(17.8%)、可1名(1.0%)で、履修者101名全員が履修を修了した。以上により、内容的には妥当であったと判断する。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今年度、シラバスを参考に(68人 70.8%)し、あらかじめ授業の計画を立てた(52人 54.2%)学生が半数以上おり、学生の「学修準備性」は高かった。「学習量」については、予復習時間のうち、予習時間30分; 10人(10.4%)、60～90分; 12人(12.5%)、120～150分; 21人(21.9%)、180分; 50人(52.1%)と、殆んど(96.9%)の学生が予習に取り組んでいた。また、復習についても、30分程度; 14人(14.6%)、60～90分; 22人(22.9%)、120～150分; 16人(16.7%)、180分; 34人(35.4%)で、多くの学生(89.6%)が復習に取り組んでいた。学生の自由記述からも、その自主的・積極的な学修への取り組みの様子は窺えた。図書館(87.5%)やインターネット(94.8%)等の利用状況も非常に高かった。
7. 総括的评价と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的评价と課題をお示しください。	・本科目の成績評価は、授業参加度(16%)、記録物(24%)、学修成果(60%)による総合評価としている。今年度も受講生101名全員の履修が修了した。成績の内訳は、秀16名(15.8%)、優66名(65.4%)、良18名(17.8%)、可1名(1.0%)、クラス平均 83.1(±5.49)点(最高94点、最低69点)であった。 ・授業（ディベート・マッチに向けての準備）に意欲的に取り組む学生たちの学びの姿勢やディベートマッチでのパフォーマンスからは、初年次教育としての「基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ」が年間を通して目標とした、1.主体的に学ぶための基礎的スキルの強化・鍛錬、2.社会人基礎力の育成・強化、3.グループ活動を通しての自己の客観視と課題発見、4.コミュニケーション力の向上、5.課題解決力の獲得・強化など、主体的学習者として、ひいては看護実践者としての課題発見力、課題探求力、さらには課題解決力の獲得・強化を図ることを目指した本科目の教育目標は「達成された」と判断する。 ・全学的なカリキュラム改正に伴い、2018年度より看護学科も新カリキュラムに移行する。今後は、総合人間科学に新たに位置づけられる「初年次ゼミナーⅠ・Ⅱ」について、その科目概要を理解したうえで、学科としての授業運用案を検討することになるだろう。その際、現行カリキュラムで「基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ」が目標とした上記1.～5.を念頭に、看護学科独自の運用案を検討し、具体化することが課題と考える。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	岩本 テルヨ

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護理論	1	後期	必修	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機を見ると、「関心のある内容である」は3.2%にとどまっている。そのため、看護学概論（1年前期）で取り上げた「看護覚書」から、ナيتينゲールに関心が出てきていると思われるので、まず導入はナيتينゲール理論とした。理論をわかりやすくするために、理論が生み出された背景（社会的・医療・看護等の状況）等を交えて解説するようにした。 ②理論は1コマ1理論とし、できるだけ簡潔にまとめ、実践への活用を考えさせた。理論の実践への活用に関しては一部レポート提出させた。理解を助けるために、各講義の最後に、まとめとしてDVD教材「看護理論」の解説（の一部）を視聴させた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は76点であり、再試対象は3名であった。概ね標準的レベルに達したが、理想的レベル（概ね80点以上）に達した者は39名で約38%であった。 学生の到達度自己評価においては、知識理解に関わる「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」項目中央値はともに4.0であり、思考判断にかかわる「専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」「専門分野において的確に判断する力を得ることができた」項目中央値はともに4.0であり、成績評価と合わせて考えると、概ね目標は達成したと考えられる。また、到達度自己評価の他の6項目においても、中央値は4.0であった。学生の学習量において、予習復習をしていない学生が約半数、自発的学習も約7割がしていない状況がある。しかし、図書館で本・雑誌を利用したり学術データベースを検索利用した学生も約3割はいる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「専門教育科目-看護実践の基本」であり、看護学すべてにかかわる基盤的な内容であり、必修である。1年次でやや難しい側面もあるが、学生は一定の成績を収めており、内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみても内容的妥当性 学生の到達度自己評価において、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」において中央値は4.0の評価となっており、成績評価においても7割以上はあり、内容的には妥当である。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、5項目平均値が3.8～4.0であったが、学習量の評価においては「1回30分以上の準備・復習をどれくらい行ったか」について2,3回以上と答えた学生は3割程度であった。図書館の利用については「図書、雑誌の利用した」学生は3割程度であった。前年度は図書の利用が約15%と少なかったため、今年度文献等の紹介等を心がけたところ、約3割と少ないものの伸びがみられた。さらに理論への関心を広げていくために文献の紹介を幅広くしていき、復習および自発的学習の時間の拡大につなげていきたい。 看護理論のDVD教材の活用について難しい部分もあるので検討課題としていたが、それぞれの理論においてDVDの内容を検討し、わかりやすい部分のみの視聴にとどめた。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	「看護実践の基本」という本科目の位置づけから、基本的知識の形成は達成できたが、再試験者は前年に比べ5名から3名に減少したものの、一部やや不足気味の学生もあり課題である。1年生ということを考慮し、内容の精選、平易な説明に引き続き取り組んでいきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	岩本 テルヨ

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護倫理	2	後期	必修	いいえ	100

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1年次に選択科目「医療倫理」を受講している学生もあり、倫理に関するペースは3-4割程度はあると考えられるが、受講動機において、「関心のあ る内容である」を選択した学生は昨年より低く、2.1%であった。学生の関心を高めるために、時事的な倫理的課題にかかわるニュース、身近な倫理 にかかわる事例等を講義の初めに取り上げ、学生の意見を聞くようにした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれか を選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績評価の平均値は74.5点であり、再試対象は5名であった。多くは標準的レベルに達したが、理想的なレベルに達したものは32名で、約3割強であった。 学生の到達度自己評価において、知識理解にかかわる「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」「知識を確認、修正したり、新たに学ぶことができた」において平均値3.9、3.7であり、思考判断・態度にかかわる「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」「専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」において平均値3.7、3.8であり、概ね目標達成されたと考えられる。 学習量の評価においては、「授業に参加するために、1回30分程度以上の準備をどれくらい行いましたか」においては、0回が約半数、約3割が2、3回以上と答えており、復習においても同様の結果であった。図書館等の利用については、約9割が「利用しなかった」と答えており、こういった「学習量の評価」「図書館等の利用」の状況を勘案すると、多くが自発的に学習を行っていない状況があるが、「情報利用」において「あらかじめ授業の計画を立てた」学生も約25%はあった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目-看護実践の基本」であるが、すべての看護にかかわる基盤的内容であり、近年特に重要性が増している科目であり、「必修科目」である。臨地実習が基礎看護学実習だけしか済んでいない状況で、医療現場における倫理的課題のイメージがわきにくい、学生の到達度評価からみても一定の評価が得られており、内容的には妥当である。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 学生の到達度自己評価からみても一定の評価が得られており、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、全5項目の平均値が3.7～3.8であり、概ね肯定的な評価であった。 学習量の評価においては「1回30分以上の準備・復習をどれくらい行いましたか」において、2～3回以上と答えた学生は約3割であり、図書館等の利用においては、1割未満の状況であった。しかし、自由記述を見ると、「本を読んだ」、「倫理について調べた」、「ノートづくり」との記述もあった。 授業課題以外に学習に取り組んでいない理由に「何をすべきかわからない」との記述があったので、講義の中で本の紹介等具体的に示していくとともに「グループワークの時間が短すぎる」との意見があったので、8コマの授業のなかでできるだけ意見交換をしていきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	「看護実践の基本」に位置付けられている科目として、実践の基本としての看護倫理の「知識・理解」「態度」において達成できたと考える。しかし、様々な価値観を知るためにも、ディスカッション等が必要であるので、8コマの授業の中でその時間の増加を図りたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	梶原 江美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活援助技術論	1	後期	必修	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、専門教育科目の看護実践の基本にあたる日常生活行動を自分では行えなくなった人への援助について学ぶ科目である。 そのため、各単元を学ぶ基本的前提として、学生自身の日常生活行動を振り返ってもらうことを予習課題や授業の説明などに取り入れて想起させている。そのことを基本に、どのように援助していけばよいか、また声をかけていけばよいか、といった具体的な援助とそれに関連する必要な知識の習得を行うようにした。 学生の受講動機としては、「必修科目である」ことを全員が選択している。1年前期の「看護技術論」に引き続いて、具体的な生活援助技術を学び始めるという点において、学生の動機づけは高いと考えている。そのため、授業資料などは、可能な限り、前回の時までに配付し予習ができるようにした。また、科目授業回数の終盤には、関連の国家試験問題を配付し、学生の学習意識を高めることを目指した。 本年度は、課題提出や自己の主体的学びをポートフォリオとして提出するようにした。学生は、資料を意識的に整理し、まとめることはできているものの、発展的な自己の学習へとつないでいる学生はほとんどみられなかった。今後の課題である。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された			達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は、75.1±8.8点で再試対象者は5名だった。問題の難易度は例年同様に作成している。昨年度は、平均73.8±9.1点で再試対象者が6名だったことと比較すると、若干平均点が高いが、再試験者の得点や人数からするとほぼ変わらない。再試験では、5名全員が受験した。受験した5名の平均得点は76.8点で昨年(76.5点)とほぼ変わらない。最終的な評定の内訳は、秀1名、優35名、良39名、可21名、不可0名で、評価内容に対しては偏りがなく概ねバランスが取れていたのではないかと考えている。目標別にみると、本科目は日常生活行動を援助する看護技術の演習を含む科目であることから、必要な知識理解を筆記試験で問い、技能表現を実技チェックで確認した。態度については、本年度ポートフォリオを導入し、演習課題の提出、主体的に取り組む姿勢といった授業貢献度を総合的に評価した。ポートフォリオの提出は100%で、実際の演習や講義ともにまじめに取り組む学生が多い。しかし、提出されたポートフォリオを見ると、与えられた課題に関しては書いているものの、関心ある文献を読んでいた、自ら課題を見出すといった大学生らしい態度は見られなかった。今年度も昨年同様、知識のまとめとして、生活援助技術論に関連した国家試験問題を自己学習できるように配付し、最終コマでは、解説を行ったが、ポートフォリオの中に、+αの学習をしている学生はほとんどおらず、今後の課題である。 学生による授業評価については、到達度自己評価で概ね80%以上の学生が「わりにそうだと思う」または「かなりそうだと思う」と回答しており、客観的評価である成績と学生の主観的な達成感が相関しているものと考えている。理由として、アンケートの結果からは、図書館の利用やシラバスを参考に演習の動画視聴による予習などが考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」のなかの看護実践の基本にあたる必修科目である。このことは、受講動機で全員が選択していることから認識は高い。今後、さらにシラバスの活用などを呼びかけ、予習や復習を積極的に行いながら、知識や技術が深めていけるように促していきたい。 内容的に妥当性は確保できていると考える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価及び学生の到達度自己評価の両側面から見て、妥当であると考えている。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、各項目の5段階評価は、平均4.3～4.4と高い評価を受けた。理由として、各回に実施する授業内容から授業目標を具体的に提示したことや可能な限り、事前に資料の配付や課題を提示していたことが挙げられる。一方で、この科目は、約100名の看護技術演習を含むため、その演習運営においては、学生自身の自覚と理解、行動が、学習成果に影響を及ぼすと考えている。この点で、本科目を履修した学生たちの多くが、学習内容と学習目標をしっかりと意識して真面目に学習してくれた成果とも受け取っている。 授業評価の中での自由記載では、教員の指導の統一を願う意見が聞かれた。授業に参加する複数の教員とは、演習前後の打ち合わせと振り返りを行い、次回につなげているが、指導方法の統一までは現実的には困難である。しかし、これら学生の意見を参考に、何を優先的な指導内容にするか、ここで学生が押さえるべき看護の原理原則は何かについての共通認識をより一層意識して取り組んでいきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成状況の総括的評価としては、前述のとおり概ね達成できていると考えている。 学生の多くは、そのことを認識して、積極的に学修をしていることが成績評価および学生の到達度自己評価からも確認できた。今後も、引き続き、国家試験対策を加味しながら教授していきたい。 課題としては、限られた教員数や時間の中で最大の効果が発揮できるよう演習や課題の提示、説明を工夫する必要がある点である。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	小田 日出子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ヘルスアセスメント	1	後期	必修	いいえ	104

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	「受講動機」としては、本授業は必修科目であり、看護師の資格取得に必要であることを選択理由とする者が殆んどである。今年度は、単位数の確保；6人(6.2%)やGPAを上げる；2人(2.1%)目的、また「友人が履修している」にチェックした学生1人(1.0%)がいたことに、正直驚いている。そもそもが看護専門職を目指しての入学であったのか、やや疑問に感じるところでもある。 「学修準備性」については、シラバスの記載を参考にし(82人 81.2%)、あらかじめ授業の計画を立てた学生が半数以上(57人 56.4%)おり、学修への準備性は概ね整っていたと考える。 「学習量の評価」では、予復習時間について、予習時間は30分；14人(13.9%)、60～90分；32人(31.7%)、120～150分；25人(24.8%)、180分；30人(29.7%)と、学生の約9割が本授業の予習時間を十分に確保していた。また、復習が30分程度の学生はわずか6人(5.9%)のみで、殆どの学生は、60～90分；37人(36.6%)、120～150分；32人(31.7%)、180分；26人(25.7%)と、予習以上に復習に時間を費やしていた。自由記述にあった「自主練習」「わからないところ、興味のあること、知りたいこと、課題中に見つけた疑問点を調べた」「ノートまとめ」等からも、学生が自主的・積極的に学修に取り組もうとしていた様子が窺えた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	当該科目の総合評価は、筆記試験 50%、実技試験 25%、レポート及び学習貢献度 15%による。 授業では、スクリーニング技術（バイタルサイン測定技術）及び消化器系（腹部）、呼吸・循環系、感覚器・神経系、筋・骨格系（運動）のフィジカルアセスメントに必要な身体診査技術の習得を目指し、講義→デモンストレーション→技術演習の流れで展開する。さらに、授業中盤には「バイタルサイン測定技術」の実技試験を行う。その後、期末試験として筆記試験を実施する。レポート及び学習貢献度については、演習毎の評価としている。 今回、実技試験の結果は、本試合合格者74名、不合格者29名で、学生全体の凡そ8割が、本試験段階で目標とした技術に到達できた。本試合合格者については、再指導と再試験を実施、最終的に1年生(101名)全員が課題とした「バイタルサイン測定技術」を習得できた。続く筆記試験のクラス平均は、60点満点中39.8点（最高51点、最低25点）で、昨年度を4.4ポイント上回っていた。総合評価としてのクラス平均は76.0(±8.05)点（最高90点、最低53点）、成績の内訳は、秀1名、優37名、良41名、可24名で、本科目の履修者(1年生101名+再履修者2名)全員が履修を修了しており、教育目標は概ね達成されたと考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、看護の「専門教育科目」のうちの「看護実践の基本」に位置づけられている。科学的根拠に基づく看護を実践するには、「看護実践の基本」を土台となって支える「看護を学ぶための基礎」の専門基礎知識を効果的に活用させる必要がある。そのことを意識した事前／事後の学習課題の提示であり、次の段階である「看護実践の応用・展開」に繋がる基礎的知識・技術の修得の場であり、態度育成の機会であると考えられる。 前にも述べたが、本科目は必修であり、看護師資格の取得には欠かせない科目である。まづもって、看護学科に入学してきた時点で、学生個々の「受講動機」即ち「学修準備性」は高いと言えるだろうし、実際、シラバスの記載を参考に、事前に授業計画を立てた学生が半数以上いたことからその状況は窺える。学習到達度の自己評価においても、DPそれぞれに繋がる(1)から(10)の項目について、平均して高い水準の値を維持できていた。 成績評価についても、筆記試験 50%、実技試験 25%、レポート及び学習貢献度 15%による科目の総合評価において、クラス平均76.0(±8.05)点（最高90点、最低53点）、成績内訳：秀1名、優37名、良41名、可24名で、履修者103名全員が履修を修了した。以上により、内容的には妥当であったと判断する。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。	1単位 30時間(2コマ8回)の授業は、講義→(デモンストレーション)→技術演習を基本の流れとして展開している。演習には独自の技術手順書を使用する。また、看護学科LMS(Kaname.net)を積極的に活用し、技術習得にむけた学生の自主学習を支援している。授業中盤には「バイタルサイン測定技術」の実技試験も行うため、1年生にとってはハードな授業進行と言える。 今年度は、シラバスを参考にし(82人 81.2%)、あらかじめ授業の計画を立てた学生が半数以上(57人 56.4%)おり、学生の「学修準備性」は高かった。「学習量」については、予復習時間のうち、予習時間30分;14人(13.9%)、60～90分;32人(31.7%)、120～150分;25人(24.8%)、180分;30人(29.7%)と、約9割の学生が予習に取り組んでいた。復習についても、30分程度の学生はわずか6人(5.9%)で、学生の多くは、60～90分;37人(36.6%)、120～150分;32人(31.7%)、180分;26人(25.7%)と、教員の予習以上に復習に時間を費やしていた。学生の自由記述からも、その自主的・積極的な学修への取り組みの様子が窺えた。図書館(73.3%)やインターネット(74.3%)等の利用状況も高かった。さらに、一昨年より4年次「看護総合演習」と本授業をリンクさせ、10～11月の時期に限り、ゼミ担当の4年生6～7名にSA(Student Assistant)としての技術指導を依頼している。1年生にとっては身近な4年生を先生役として直接指導を受けることで、些細な疑問でも聞きやすく、また「同じ苦労」を味わってきた経験から、困ったり悩んだりする点も共通する先輩との関わりの中で、技術習得への関心・意欲が高まり、演習への積極的な取り組み姿勢に繋がっている。4年生も「教える」という体験を通して、最終学年であることの自覚や自分自身の知識・技術の振り返り、また、より深い知識獲得の機会となっている。100名を超える1年生に看護の基本技術を確実に習得させることは容易ではないが、種々の試みを工夫かつ継続することで、より積極的に主体的な学修姿勢への変化に繋げることができたのではないかと考えている。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生は、本授業を通して達成すべき学修目標を概ね達成できており、標準レベル以上に到達したと考えている。 次年度に向けての課題として、以下の3点を挙げる。 ①学生への連絡事項、例えばポートフォリオの提出期日(現行4週間前)や「実技試験」に関する事前説明(現行3～4週間前)を、現行よりも早い時期に行うよう日程を調整する。 ②予復習に120～180分を要し、「時間に追われた」「余裕がなかった」「手一杯だった」との記述のあった事前・事後の学習課題について、学習量の適切性を再検討する。併せて、課題内容をブラッシュアップする。 ③予復習時間が十分でない「何をしてもいかなかった」とした学生への対応策を具体化し、実践する。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	小野 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
小児看護学概論	2	後期	必修	いいえ	98

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、看護の必須科目であり受講動機も100%必須科目と解答をしている。また、この科目への関心は1. 1%と低く、まずは関心を持てるような工夫が必要と思われる。学生の準備性としては、小さい子どもに接する機会があまりなく、イメージが付きにくいため子どもの成長発達なども、具体的な数字や例を挙げ、また出来るだけ視聴覚教材を使って説明した内容と実際が関連づけられるような工夫を行った。また、今回、北九州市の事業の一環として「赤ちゃんふれあい授業」を活用する機会に恵まれたため、学生たちに映像とかではなく、実際の子どもや母親とふれあうことでより子どもへの理解の一助として授業に組み込んだ。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績は、平均値は80.9点であり、再試験対象者は2名であった。(2人とも再試験後合格)。60点台(可)が2名であったが、80点以上は64名(秀:15名、優:49名)と66.7%の学生が理想的レベルに到達していた。概論では、知識理解に関する修得割合が高く、覚える部分が多くある。知識理解に関して74%と標準レベルには達しているが、理想レベルにはあと少しである。これは勉強不足もあると思われるが、単に覚えることが多いというのではなく実際の映像や子ども達の状況と結びつけながら、繰り返し確認していくというこちら側の働きかけも必要であると考え。思考判断については、90%であった。これは、試験の内容がレポートの内容と重なっていたため高得点になったと考える。また、受講動機では、関心のあるものが1名であったが、到達度自己評価では、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」が4.0と受講後関心を持つことができ意欲関心については目標は達成出来たと考える。ただ、1名自分なりの目標を全く達成出来なかったとしており、少しでも達成出来るよう授業や学生の理解度の把握方法を検討していきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の中の「看護実践の応用・展開」にあたる教科である。「看護を学ぶための基礎」や「看護実践の基本」を踏まえ、対象となる小児に対する看護の基本的な考え方を学ぶための教科となっており、必修科目である。授業に関心を持っていた学生は1名と少なかったが、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解は74%、思考判断は90%と目標はおおむね達成されており、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、全体的に3.8から4.0と評価されていたが、レポート、提出物の評価基準が大まかなものであったため、さらに具体的に細かな提示をしていきたい。学生の意見として、赤ちゃんとのふれあい授業で、小さい子どもと母親に接する機会があったことで今後の学習をイメージしやすくなったとの意見があった。このような機会があれば今後とも取り入れていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	「専門教育科目」のなか「看護実践の応用・展開」で、子どもを対象とした看護の入り口にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できた。これらの知識・考え方を概論に続く小児看護方法論へとつないでいくことで、知識理解、思考判断を強化していきたい。 また、子どもの理解に実際の子どものふれあいを取り入れることが可能な限り、今後も計画していきたいと考えるが、来年度から、本科目が前期に移行するため、市の事業は活用できないことも考えられるため、これに代わる方法を検討していきたい。 授業では、引き続き他の学生との話し合いの時間を適宜盛り込むことで、自分の意見を述べる機会を増やし、他人の意見を聞き討議できる機会を増やしていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	小野 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
小児看護方法論	2	後期	必修	いいえ	98

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、看護の必須科目であり受講動機も98.8%が必須科目であると回答をしている。また、小児看護学概論での到達度自己評価では、関心・意欲を持つことができたとして評価していたが、本科目への関心は0%という回答であった。最終的な本科目での到達度自己評価では、学びを深めたいという意欲を持つことができた (3.8) と評価しているため引き続き、関心の低い学生にも興味を持てるような工夫をしていきたい。学生の準備性としては、時間割上は小児看護学概論と同時進行になっているが、子どもの理解がある程度出来た上で、その子どもたちが健康障害を持った時の看護を考えていく方が理解しやすいと考え、先に概論を進め、概論が終了した後方法論を開始するように運用上の工夫をしている。子どもに接する機会があまりなく、イメージが付きにくいいため学生にとって、健康障害をもつ子どもや入院中の子どもの姿は想像しにくいと考えられるため、視聴覚教材の活用をできる限り取り入れている。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績は、平均値は81.2点であり、再試対象者は0名であった。60点台(可)が2名であったが、80点以上は63名(秀:3名、優:60名)と約65%の学生が理想的レベルに到達していた。成績評価では、知識理解に関して73.8%と標準レベルには達しているが、理想レベルにはあと少しである。思考判断については、86.2%であった。方法論では、グループワークを取り入れており、グループメンバーの構成によっては、個人的にはまだ十分思考判断力が付いていなくてもグループの成果物としてのレポート評価が良いために個人の全体評価がやや高くなることも多少影響していると考え。患児の状態をアセスメントする事例を挙げながら適宜組み込んでいくことで、判断の根拠を確認していき理解をしやすくなると考える。講義後は、わからないところなどの質問を挙手で、あるいは毎回配布する質問感想表に書いてもらうことで具体的に学生の疑問に答え、難しいと感じているところわからないところを補足説明をしているが、引き続き学生へのフィードバックを丁寧に行っていく必要があると考える。意欲関心については、学びを深めたいと意欲を持つ学生が多く、この先演習や実習まで持ち続けられるよう繋げていきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の中の「看護実践の応用・展開」にあたる教科である。「看護を学ぶための基礎」や「看護実践の基本」を踏まえ、対象となる小児に対する看護の基本的な考え方や子どもの成長発達といった特徴を学んだ後、さらに健康障害をもつ子ども達の看護を学ぶための科目となっており、必修科目である。授業に関心を持っていた学生はいなかったが、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解は73.8%、思考判断は86.2%と目標はおおむね達成されており、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「説明は理解しやすいものであった」に対して全くそうでない1名、少しそうでない4名と説明に対する理解が十分できないと思う学生もいることから、ほとんど毎回質問感想表の受け渡しをし、学生の質問には口頭あるいは文書で。答えてきたつもりであったが、まだ十分答えられていないと感じている学生がいるということかもしれないので、出来るだけ口頭のみでなく、文書で回答することを徹底させていく必要があると考える。また、説明の仕方も具体的な例や、図・表等を用いるなど配付資料の工夫を検討していきたい。講義形式のみでなく課題を与えグループワークを入れることで、図書館の活用やグループ内での議論から、いろいろな意見・考え方を知ることが出来、学生にとってはいい学びになっていると考える。しかし、図書館の利用をしなかったものが約58%おり、グループワークでも教科書のみあるいはインターネットで済ませている学生がいるため、情報の取り方の意図的な方法をグループワークの進め方に組み込んでいくことも検討したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	「専門教育科目」のなか「看護実践の応用・展開」で、子どもを対象とした看護の方法論を学ぶ本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については標準的レベルには達成できた。これを理想レベルに上げるため、わかりやすい講義の方法、内容の絞り込み等の検討を行い学生の理解度を上げていきたい。 授業では、病児や入院生活等をイメージしやすいように視聴覚教材の活用を継続し、また他の学生との話し合いの機会を適宜盛り込むことで、自分の意見を述べる機会を増やし、他人の意見を聞き討議できる機会を引き続き設けていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	笹山 雪子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
母性看護学概論	2	後期	必修	はい	101

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①昨年度の授業評価から、受講生が多く個々の質問に回答できる時間の確保が困難であるため、初講時にシラバスに沿って講義の進行計画を丁寧に説明するよう計画した。また、今年度も質問カード(出席カード)を講義終了時に提出することで、次回開始時に前回の要点や質問に対して再度説明し、質問に解答していくよう計画する。 ②2年生であり、方法論との関連や3年時実習が始まること、および国家試験の準備として重要な必須科目である。学生の中には学習態度が悪く、学習意識が低い学生も一部おり（前年度の状況）自己の身体を理解すること、女性のライフサイクルに関する看護に興味・関心を持つようにわかりやすい言葉やわかりやすい資料を工夫し説明していくよう努める。具体的には、DVD等視聴覚を活用し、また演習と実習がイメージできるよう具体的な事例や情報を取り入れ、資料（パワーポイント・写真・配布物）等を工夫する。 ③母性看護学概論は母性看護方法論に連動するため、教員間で進行状況や学生の知識理解度を確認しながら講義に当たる。 以上についてシラバスを一部修正し、講義に取り組むように計画した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	DP1-2 知識・理解の平均値は、38.9/65点 DP2-1 思考・判断 18.6/30点 DP3-1関心・意欲 4.7/5点、であり、全体の成績の平均値は62.3 (±10.9)であった。 DP1-2知識・理解については試験55点、小テスト5点の合計60点とし、DP2-1思考・判断についても試験30点で評価した。DP3-1関心・意欲5点は、授業態度や質問等で評価し、合計100点で評価した。 再試験対象者は19名であった。 再試対象者には個別で面談し、再学習を促した。再試験受検者全員が課題を実施し、再試に臨むことができ、全員合格した。 達成度、学生の授業評価アンケートの結果では、「学修準備性」は、小テストを行ったことで予習・復習する学生が多く、評価できた。学習到達度の自己評価では、「知識を確認し、修正したり、新たに得ることができた」については全員がそう思うと回答し、平均値3.8、中央値4.0であった。「専門分野のさまざまな課題を検討する力を得た」、「専門分野について学びを深めたいと意欲を持てた」についても平均値3.7、中央値4.0であった。学習量の評価では、多数の学生が予習・復習を行っていたが約3割以下の学生に学習量不足がみられた。学修のための情報利用では、半数がシラバスを参考にしていた。また、オリエンテーションを参考に授業を受ける計画を立てていた。自由記述の意見では、小テストの勉強を行った。復習を行った。ノート作成をした等の意見がみられた。教員への意見として、小テストと講義が予定と変更したことで一部不満が聞かれた。小テストが負担であったと考える。DVD等視聴覚教材を使用したことについてはわかりやすかったとの意見が多かった。教科書をベースに授業を行ったが、それ以外の情報を含め講義しても学生にとってはわかりにくいという評価があり、課題も残った。 過去に国家試験問題からのまとめを最後に行ったが、その点についてはわかりやすく、国試対策や学習の方法の理解につながり効果的であったため継続していく。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、母性看護の基礎的知識を修得するための必須科目である。母性に関連したあらゆる健康状態にある個人、家族、集団、地域社会を対象に、根拠に基づく系統的な支援活動を行うための、専門教育科目として看護実践の応用・展開に必要な知識について理解するものである。最終のまとめとして国家試験問題についても解説し、3年生、4年生を視野に入れて取り組みができた。一定の成績を収め、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 母性看護の基盤となる概念、母性看護の目的の理解、母性看護の対象の理解、母子保健の動向と母性看護の歴史、母子保健に関する法律の理解、そして、女性のライフサイクルの健康問題と看護について理解が深まるように、小テストを入れ予習・復習の時間をとり学習を深められるよう工夫した。全体で成績の平均値は62.3 (±10.9) でやや低く、再試験対象者19名と多かったが、再度学習を深める時間を確保し再試験不合格者はいなかったため、内容的には妥当であったと考える。 以上から、内容的には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては、「授業中に自分の意見をまとめ、話し合う、発表するなどの学生が参加する機会がつけられていた」については、平均値3.3 中央値3.0と低かった。授業環境〔狭い教室・Gワークしにくい配置等〕の中で時間を確保して行うことは難しいが、課題として残る。 学習量の評価では、具体的な課題を示し、全体共有するよう工夫していく必要がある。情報利用・図書館利用についても、課題から繋げるよう工夫していく。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	母性看護学概論の範囲は広く、じっくり講義していくことができなかった。わかりにくいところを再度説明したり、質問に最大限応えるよう努めたが、時間的余裕がない講義となった。学生のなかには主体的に学びを深めようとする学生が多い中、消極的な学生もあり、どのレベルで進めていくのか難しい状況もあった。課題としては、学生の声をしっかり反映していけるようさらなる工夫が必要と考える。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	竹内 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
母性看護方法論	2	後期	必修	いいえ	98

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機の「必須科目である」100%という結果が示すように、本科目は看護実践の応用・展開科目であり、3年生で学習する母性看護学演習やその後の母性看護学実習につながる基本となる重要な科目である。そのため、学生が3年生の講義につながっていることを自覚し講義に臨めるように、関連づけて講義内容を説明してきた。 講義では、周産期における女性の妊娠分娩産褥各期および新生児期における身体的・心理的・社会的変化を中心に学ぶことになるが、周産期各期の変化は大きく、理解すべき知識や支援方法もかなり多い。そのため、できるだけ重要ポイントがおさえられるように、講義で配布した資料に空欄を作って学生自身が講義中に記入する形式を取り入れたり、パワーポイントに示す資料も文字だけでなく、写真や図、DVDなどの視聴覚教材も活用し、学生がイメージ化できるよう工夫した。 なお、DVDについては、より具体的にイメージ化できることを意図し、出産された方の体験談を含めた内容のDVDに変更した。 また、配布資料に教科書や参考文献のページを示し、講義後でも復習に取り組みやすくなることを意図した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均点は70点であった。再試対象は19名であった。再試受験者は全員が標準レベルに達したが、理想的レベルを概ね70点以上として試験を作成し、理想レベルに達したものは48名であった。 目標別にみると、知識理解65%・思考判断60%であり、思考判断では得られた知識を活用しておこっている現象をアセスメントするために応用できるかを問うものであり、周産期にある対象者の実際のイメージ化が難しい学生にとっては理解が難しかったと思われるため、講義の中で意識して解説したものの、正解率は昨年よりも低下した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	必須科目であることから本科目を履修している。応用・展開科目であり、知識理解は目標達成されており、さらに、思考判断については更なる方法的に改善の余地はあるものの、3年生に向けて意識付けはできていると思われる内容的には妥当であるとする。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業評価では、約9割の学生が知識理解や思考判断の観点で達成できたとしている。しかし、再試験者があったことや半数近くが予習や復習をしていないと回答していることから、日々の学習の積み重ねの大切さを意識できるような働きかけを行っていく必要があると考える。また、学生から国家試験問題を講義に活用してはどうかという意見もあり、知識の確認効果も踏まえて考慮していきたい。毎回きかれるように、周産期はイメージが難しいこともあり、学習の難しさにつながっているとも推測されることから、今後もより具体的な事例や聴覚教材を活用し、学生が得た知識を3年生の講義につなげ活用していけるように努めていきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	看護の実践の応用・展開科目であり、今後の関連科目につなげて活用していくために必要な基本的な知識理解や思考判断、関心意欲は概ね達成できた。イメージが難しい反面、女性として自分自身の問題として取り組みやすい科目でもある。受講動機では関心のある内容と回答した学生が2.5%である科目だったが、講義を受講することで関心を高め、意欲を持って学習に取り組んでいる姿勢も見られた。今回、再試験者が増加した結果から、より学生の理解につながるような講義方法について工夫が必要である。、
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
成人慢性期看護方法論	2	後期	必修	いいえ	102

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は2年生前期科目である「成人・老年看護論」を基盤に系統別看護学として発展したものである。既習の疾病学や形態機能学など実践応用し成人の慢性病を持つ人とその家族のQOL向上に向けた看護活動を実践するための科目である。学生はこれまで基礎実習体験はあるが、疾患のイメージがつきにくく、また病態理解も乏しいため、看護の理解が出来るよう具体的説明を加えながら授業をすすめた。科目の対象となる範囲も広く、中間評価を行い学生の到達度を確認した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	総合評価は平均点64.8点で、最高点は82点であった。内容が広範囲であることも影響し、再試験者は19名であった。再試の結果3名が標準的レベルに達することが出来なかった。授業評価において「まあまあ理解者しやすいものであった」が94%と肯定的評価をしているが定期試験の結果、到達できなかった学生が3名いることから、知識や理解を促す授業の工夫が必要と考える。さらに試験の内容の吟味を行う必要がある。以上にことから改善の余地を残しており、全体としてはやや達成されなかったと言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は専門科目の看護実践の応用として位置づけられている。成人期にある慢性疾患を抱えている対象特性の理解から始まる。既習の疾患理解や疾患による生活への影響など、状況理解と看護支援の基本的な考え方など愚見化する必要がある。必須科目であり、国家試験においても内容を求められるところである。資格取得に必要と答えた学生は7.6%で、興味関心があると答えた学生は1人(1%)であった。臨地実習においても必要となる科目であり、内容や位置づけはは妥当と言える。 ②DP、行動目標からみた内容の妥当性 本科目の行動目標として慢性病を持つ人とその家族の特徴や日常生活に与える影響、QOLを目指した援助のあり方や、自己の健康管理について述べる事が出来るとしている。これらの「知識・理解」の達成度は46%、「思考・判断」が58%であった。判断の基盤となる知識不足に対する強化を行うことが課題である。 ③まとめ 以上のことから内容の妥当性は問題ないが、学生の理解を促す工夫が必要である。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の到達度評価では授業のための学習時間が「0」と回答した学生は36%、復習においても同様に回答している。課題提出のあり方も検討をようす。 また、主体的学習につながるような関わりも必要と考え、これらについては次年度の課題としたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は2年生後期科目である「成人・老年看護論」を基盤に系統別看護学として発展したものである。既習の疾病学や形態機能学など実践応用し成人の慢性病を持つ人とその家族のQOL向上に向けた看護活動を実践するための科目である。受講動機が低いこと、また必要とされる看護実践能力の中でも思考・判断が60%に満たない状況から次年度は授業の準備性を整え、思考の方向性を確認しながら授業の展開を行って行きたい。
------------------------------	---

学科	看護学科
氏名	村山 由起子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
成人急性期看護方法論	2	後期	必修	いいえ	100

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は、「看護実践の応用・展開」に位置し、急性期看護の特徴と定義・概念・理論について理解し、急性期にある対象の特徴、疾患や治療およびその看護について学ぶ科目である。特に周手術期看護を中心に構成され、3年次開講の成人・老年看護学演習や成人急性期看護学実習に繋がる科目である。学生の受講動機をみると、「必修科目である」100%、「資格取得に必要である」7.8%、「関心のある内容である」2.2%で、関心のある内容であると回答する学生が少ないことが分かる。 ②本科目は、形態機能学、疾病各論、臨床検査など既習の科目と関連するため、学生が想起することができるようテスト形式や質問をしながら講義展開を行っている。形態機能学は学んでいるため必要ないという意見も聞かれたが、手術により切除することでおこる機能障害を理解するためには、正常な機能を理解しておかないといけないことを伝えていきたいと考える。 ③講義では、麻酔後の看護を考える際に、実際の写真、DVDなどの媒体を使用して学生が理解できるように工夫を加えた。また乳がんモデル人形などを使用し、学生が実際に触れて考える機会とした。 ④3名の教員がオムニバスで展開を行っており、それぞれが課題を提示して学生の理解を深めるように努めている。今回、学生より課題の提示時期が定期試験前であったとの指摘がみられた。学習状況を踏まえて今後時期は検討したいと考える。課題配点について少ないという意見が聞かれたが、課題の趣旨について説明を行いたいと考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の登録者は99名で、その内放棄者は1名を除き、履修者98名であった。7名の再試験を受けた。最終的な成績の平均値は、73.1 (SD8.5) 点であり、再試験後の判定では、A判定 (90+) 0名、B判定 (80-89) 25名、C判定 (70-79) 38名、D判定 (60-39) 31名、E判定 (59-) 4名であった。ほぼ全員が標準的なレベルに到達したが、4名の未修得者がみられた。25.5%が理想的レベル (80点以上) であったのに対し、D判定、E判定が35名と多くを占めており、これらの判定者の底上げを行う必要があると考える。 目標別にみると、思考判断がやや達成されたであった。学生は事例をもとに判断をする問いに対しての正答率が悪く、知識を応用して思考するに至っていないようである。思考できるような講義内容の検討が必要である。 学生による授業評価においては、「到達度自己評価」をみると、平均値は3.5-3.8に推移しており、5～11%の学生は「かなりそうだと思う」と回答しており、すべての項目において、9割以上が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答していた。しかし、3-5%は「少しそうでない」と回答しており、この1割弱の学生の学習支援が必要であると考え。これらの学生は4年次の国家試験においても難しくなる可能性が高いと考えられる。また、予習・復習時間を見ると0回が32.7%と多くみられ、2.3回が約23%で、ほとんどの学生があまり学習していないようである。課題を課したため、図書館利用は32.7%が利用していたが、自発的な学習を行っているのは、12名と少なく、半数はしていないと回答しており、自発的な学習ができるように工夫を行う必要があると考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「看護実践の応用・展開」に位置し、急性期看護の特徴と定義・概念・理論について理解し、急性期にある対象の特徴、疾患や治療およびその看護について学ぶ科目である。特に周手術期看護を中心に構成され、その後の成人・老年看護学演習や成人急性期看護学実習に繋がる科目で、既習の形態機能学、疾病各論、臨床検査などの科目と関連している。 既習の知識に繋げながら講義展開を行い、演習や実習を考え、さらに国家試験の出題基準を考慮して講義展開を行っており、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度はやや低いものの、理想的なレベルに到達した割合が25.5%を占めていることを考えると内容的に妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、平均点3.6-3.7で、特に極端に低い評価はみられなかった。 学生の意見として、課題提示の時期について意見が聞かれた。定期試験の学習を行う時間を考慮して、学習状況を見ながら課題提示時期を考えていきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、「看護実践の応用・展開」に位置し、急性期看護の特徴と定義・概念・理論について理解し、急性期にある対象の特徴、疾患や治療およびその看護について学ぶ科目である。特に周手術期看護を中心に構成され、その後の成人・老年看護学演習や成人急性期看護学実習に繋がる科目である。 課題は、理解を深めるための課題や次の演習や実習に応用できることを意識した課題を提示している。今回、課題提示時期の指摘を受けた。学生の学習を支援する意味でも、次年度は時期を検討したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	新木 真理子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
老年看護方法論	2	後期	必修	いいえ	100

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目では、老年期の代表的な疾患として認知症の看護が入るが、認知症に関連した病態や治療については理解できても、ケアについてはなかなか具体的にイメージできず、学生は、ケアの要点をひたすら暗記していく傾向にある。今年度は、パーソンセンタードケアの理念と方法を、講義に具体的に取り入れ、DVDも活用して、できる限り学生に、認知症患者をイメージして、なぜそれぞれのケアが必要なのかというつながりを意識して講義することをめざした。 また毎年講義期間の後半で導入しているグループワークと発表については、1回の講義につき、学生の発表時間の占める割合が多いと、理解すべき知識や考え方についての教員の補足説明等が不足するため、今年度は、学生の発表スライドを3枚と限定して、教員の講義時間のほうを増やす計画とした。また発表内容も、基礎知識は省いて、看護中心の発表に切り替えた。実習で介入計画を立てる要領で、観察プラン、ケアプラン、教育プランとそれぞれの根拠をまとめる作業を課した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、68.0%であり、知識理解に関しては66.8%、思考判断に関しては71.8%であった。再試験者が11名おり、知識・理解と思考判断の問題のどちらも低得点の学生がほとんどであった。学生の到達度自己評価では、ほとんどの学生が「まあまあそうだと思う」以上の評価をしており、またそれらの項目中、職業倫理や職業選択に関する項目以外では、「わりにそうだと思う」・「かなりそうだと思う」が60%前後であったことから、全体の到達度としては、目標達成できたと考えられる。また今年度からグループワークの課題や発表内容を変更したことについては、グループワーク期間中の学生の反応や発表を聞く学生の態度等から、前年度よりも学生の集中力や熱意が感じとられ、意欲・関心が上がっていると考えられた。学生の評価として、講義に関連した図書館利用が半数以下であったり、学習量の不足がめだつことから、学習に向かう態度については、課題が残る。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「看護実践の応用・展開」に必要な科目である。看護を学ぶための基礎、看護実践の基本をベースとして、老年期にある人々の健康障害について理解し、その具体的な援助方法を学ぶことを主眼としており、時期的にも内容的にも妥当である。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 「高齢者の生活機能を支える看護の要点が述べられる」や「高齢者に特有な症候・疾患・障害のアセスメントと看護について説明できる」という行動目標は、学習内容は多岐に渡るものの、その後の臨地実習や国試に即活用すべき知識であることから、DPの知識・理解の修得に重要なものである。「認知症高齢者の経過に応じて自助能力や潜在能力を伸ばす看護について具体的に説明できる」という行動目標達成には、特にDPの思考・判断が求められ、それだけに難易度は高いが、老年看護を実践する看護者には重要な能力であり、この科目での行動目標としては適切である。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題がないと考える。①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「看護実践の応用・展開」に必要な科目である。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	後半のグループワークの発表スライドを3枚に限定して、内容も、基礎知識ではなく、看護ケアを入れる、という今年度の方法については、教員の補足や解説の分量を増やしたことで、学生の感触もよかったことから、次年度もその方法で継続することとする。 学生の図書館利用の不足については、指定図書やその他の文献の紹介を、学習すべきタイミングで提示する努力をさらに行なうこととする。 学生からの意見は、体験談がよかった、ということであったので、老年看護のあり方についての講義では、できるだけ具体的にイメージできるように、テキストで言語化し難く、本質的なものが、できるだけ学生に伝わるようさらに努力したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	この科目は、前期開講の「成人・老年看護学概論」の老年期と関連させて、高齢者の健康障害の看護について具体的に学ぶ。健康障害については、疾病学各論や成人慢性期や急性期で学んだ知識がベースになるため、この科目単独で成績を向上させることはなかなか困難である。最終成績が毎年68%台に留まっており、毎年再試者も10数名出る。しかし、老年看護の根拠に、既習の形態機能や疾病の知識がどう役立つか、ということを考えるきっかけにもなっており、そういう意味で、知識の仕上げとしてはこの科目は重要な役割を担う。グループワークでの学生との具体的なやりとりを充実させ、実習に向けた学習姿勢を育み、筆記試験での成績格差を縮めていく努力をしていく。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神看護学概論	2	後期	必修	いいえ	101

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は必修科目であるため、受講動機は「必修科目である」が100%、次に「資格取得に必要なものである」が5.4%となっている。「関心のある内容である」は1.1%であり、授業内で精神看護に関心を向けて受講できるように身近なメンタルヘルスに関する話題を取り入れた。 ②本科目は、心の健康を保持・増進するための援助法の基礎の科目である。人との関わりがケアの基本となる精神看護を理解し、精神疾患を持つ人に限らず精神的援助のあり方を強調した。 ③学生の能動的な学習を促すために、「発達段階と危機」の講義後に「ライフサイクルの危機とその支援」というテーマでレポートを作成させ、自らの危機と支援された状況について考察させ、精神の発達について理解を図った。 ④国家試験対策の一環として、授業毎に国家試験問題を解かせ解説を実施した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は71.3点であり、再試験対象は8名であった。91%が標準的レベルに達し、理想的レベル(概ね80点以上を目標)に達したものは21%であった。成績の内訳は、Sが0%、Aが21%、Bが42%、Cが28%、Dが8%であった。学生の到達度自己評価は、3.4～3.7で概ね肯定的な評価であった。そのうち知識・理解における自己評価は3.7、思考・判断に関する項目も3.7であった。授業毎に国家試験対策も兼ねて例題を1問以上解説したことは刺激になってよかったのではないかと考える。レポート提出など課題に対してほとんどの学生がやってきていたが、図書館の利用率は30%であり高くなかった。知識習得に対する自己評価は高いが、確実に獲得しているとは言えない層が10%ほどいる。国家試験対策も兼ねて確実な知識の習得ができるようにさらに検討を進めたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門科目」であり、必修科目である。精神看護学概論は、看護師として必要な精神看護全般に必要な知識と、精神看護方法論につなげる基礎的な知識を網羅している重要な科目である。国家試験に頻出する箇所も多いのであるが、精神科の専門用語の理解が学生にとって難しいイメージがある。しかし、本科目の単位習得は、臨地実習に参加できる要件になっているため、学生はまじめに取り組んでいる。国家試験を意識した授業になるため、課題は多いが学生も応えており、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から90%以上の学生が標準的レベルに達している。レポートの提出物の内容や、授業毎の質問・感想カードの内容を省みると学生は真面目に授業に参加していた。本科目の性質上、理解しづらいところは否めないが、レポート課題を課したことで、学生の理解は進んだと思われることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、昨年度は「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」の平均が2.8で他の項目より低めであったが、今年度はグループ発表の機会を取り入れたせいか3.6であった。しかし、学習量が多いとは言えず、全く予習復習をしていない学生が30%存在するのは問題である。学生の意見として、「忙しい」「余裕がない」という意見が出ているが、他の科目の課題も重なっているためだと思われる。他の科目との課題の調整が必要であれば行っていきたい。レポート提出期限がよく守られておりその点はよかった。日常の学習習慣を全員が身につけることが課題と考える。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、2年生前期の精神疾患の専門知識を学んだうえで、精神保健と精神看護全般の基礎を学ぶ科目である。基礎知識の形成についてはおおむね達成できたと思われる。精神症状のイメージがしづらいことや、専門用語が難解であり、学生にとって理解しづらい科目であったかもしれない。事例を多く取り入れることや、ディスカッションする時間を増やすなどで思考する時間を増やしていきたい。学習内容について何をしてよいかわからないと言う学生の意見も多く聞かれたので、本時のねらいを具体的に示すこと、予習復習の内容を具体的に示すことなど改善を図りたい。精神看護学概論の基礎知識から、精神疾患を持つ人の看護の基本につながっていくため精神科看護に興味関心が高まるような授業内容の検討・改善を行いたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神看護方法論	2	後期	必修	いいえ	99

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は必修科目であるため、受講動機は「必修科目である」が100%、次に「資格取得に必要である」が6.8%となっている。「関心のある内容である」は2.3%であり、授業内で精神科看護に関心に向けて受講できるように工夫が必要と考える。しかし、実習に出るための必須科目であるため学生はそれなりの準備性は持って受講していると思われる。 ②本科目は、精神看護学概論で学んだ基礎知識を活用しながら、精神の健康の維持および精神疾患からの回復を援助するための原理と方法を強調した。 ③精神障害は、イメージがしにくいため視聴覚教材を活用することで理解が図られる。精神疾患の教材DVDは、マイナスのイメージのみが、先行することがしばしばあるため、テレビドラマやインターネットの動画などで、精神疾患を持つ人の健康な面が理解できるようなものを選んで視聴させた。また、実習における看護学生と患者との良好なかかわりの具体例を示し、ポジティブなイメージをもつように心がけた。 ④国家試験対策を意識したノート整理の課題を出し、基礎的な知識を確実にするように努めた。冬期休暇中の課題として国家試験問題を解かせ、解説を記述させた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は74.3点であり、再試対象は10名であった。90%が標準的レベルに達し、理想的レベル(概ね80点以上を目標)に達したものは38名であり、学生の努力が見えた。成績の内訳は、Sが5%、Aが33.7%、Bが40.8%、Cが9.2%、Dが10.2%であった。 学生の到達度自己評価の平均は3.76でほぼ達成されたと思われる。学習量は全くしていないと答えている学生が30%存在するが、レポート提出など課題に対してほとんどの学生がやってきており、図書館の利用率も50%以上の学生が利用していた。内容が不足している学生もあり、指導を要した。冬期休暇中に国家試験に関する課題を組み入れたことで、知識習得に対する自己評価は高く、テストの結果に反映された。国家試験対策も兼ねて確実な知識の習得ができるようにさらに検討を進めたい。授業毎に国家試験対策も兼ねて例題を1問以上解説したことは刺激になってよかったのではないかと考える。知識習得に対する自己評価は高いが、確実に獲得しているとは言えない層が10%ほどいる。国家試験対策も兼ねて確実な知識の習得ができるようにさらに検討を進めたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①C P、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門科目」であり、必修科目である。精神看護学方法論は、精神科看護の展開において必要な知識と、3年生の精神看護学演習および精神看護学実習につなげる基礎的な知識を網羅している重要な科目である。国家試験に頻出する箇所も多いのであるが、精神疾患を持つ患者の理解が学生にとって難しいようである。しかし、本科目の単位習得は、臨地実習に参加できる要件になっているため、学生はまじめに学習に取り組んでいる。国家試験および実習を意識した授業になるため、課題は多いが学生も応えており、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②D P、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からは、90%の学生が目標を達成した。レポートの提出物の内容や、授業毎の質問・感想カードの内容を省みると学生は真面目に授業に参加していたと推測する。本科目の性質上、理解しづらいところは否めないが、レポート課題を課したことで、学生の理解は進んだと思われることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	精神看護学概論では何をしようかわからないと言う学生の意見もあったが、方法論では、学習の進め方が具体的になり、ノートまとめや疾病学の学習、教科書をよく読むなど、学習に対する姿勢が能動的な方向へ変化してきた。レポート提出期限は全体的に守られていたが、内容が希薄なものもあったので指導を行った。 授業の質評価において、昨年度は「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.1で他の項目より低めであったが、今年度はグループ発表の機会を取り入れたせいか3.7であった。しかし、学習量は多いとは言えず、全く予習復習をしていない学生が30%存在するのは問題である。学生の意見として、「課題に追われていた」「余裕がない」という意見が出ているが、他の科目の課題も重なっているためだと思われる。他の科目との課題の調整が必要であれば行っていきたい。レポート提出期限がよく守られておりその点はよかった。日常の学習習慣を全員が身につけることが課題と考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、2年生前期の精神疾患の専門知識と、精神看護学概論の基礎知識から、精神疾患を持つ人の看護の基本を学ぶ科目で。本科目の知識は、3年生の演習、実習の基本になるため、精神科看護に必要な基礎的知識の理解、思考の理解が望まれる。近年のストレス社会において、精神疾患を持つ人が増えており、教授すべき内容も増えた。知識が十分ではない学生、思考の整理が不十分な学生も多々存在するため、3年時の精神看護学演習でそれらを補えるようにしなくてはいけない。国家試験を意識させた方が学生も真剣に取り組む傾向にあるが、知識に偏ることなく、精神障害を持つ人への看護の応用・展開につながるようにしなくてはいけないと考える。また、国家試験においては災害時の心のケアも盛り込まれており、時代が求めているものを速やかに取り入れることも必要である。学習の基本が身についていない学生に対して教科書をよく読む、自分でノート整理を行うなど基本が必要と考え、課題として実施したが困難な学生も数人おり今後の課題である。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	飯野 英親

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護基礎マネジメント論	2	後期	必修	はい	98

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は必須科目だからという意見が大半であったが、病院の臨床現場ではマネジメントが非常に重要である。患者の安全を確保する場合も、環境や時間、人のマネジメントなしにはなし得ない。そういった基礎的なマネジメントの重要性を理解することに重点を置いて授業に臨んだ。病院法人格の相違、標榜の意味、資源管理、キャリア開発、継続教育など基礎的な内容は、定期試験の結果から見ると目標を達成した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は看護臨床実習の取得単位数が少なく、病院の実務について理解が浅い学生が対象であるため、管理に関する内容を知識として習得させるために、教科書と実務事例が豊富な副読本の2つを併用しながら教授した。この2冊は、4年次に開講する「看護マネジメント論」の指定教科書でもある。1単位の時間数の中で2冊の書籍の基礎内容を教授したつもりであったが、実務経験的な教科書の内容が少ないという指摘であった。実務・倫理的行動・キャリアビジョンに関するレポート課題を課して、教科書の理解度を確認する方法をとることが必要であった。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康危機管理論	2	後期	必修	いいえ	101

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	2年生後期の科目である。学生の受講動機から1名を除く学生が「必修科目である」を選択している。 本科目は1単位であるが、昨今の日本の状況から国民が健康危機に遭遇する事象が数多くみられる。そのため、それらの事象を取り上げながら、看護職としてどのように考え、対応すべきスキルの必要性について理解を求める。授業開始当初は、災害当事者として事象を捉えていくが、授業進行とともに看護専門職支援者としての立場で思考できるように段階を踏んでいく講義を計画している。 毎時の授業コメントにおいて、授業の理解状況の中から、学生の態度を変化を捉え、授業方法の微調整を行っているが、本年度の学生は、看護専門職としての立場で事象の学習が前年度より進んだと判断できる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、82.1点であり、再試対象者は4名であった。標準的レベルに達した学生が96%であり、内、理想的レベルに達した者は62.6%であった。 目標別にみると、知識理解に関しては77.1%、意欲・関心に関しては99.9%、態度に関しては99.9%であった。 成績平均値及び知識理解の獲得率を前年度と比較すると、少し下がっているが、授業コメント及び意欲・関心、態度では向上している。 学生の到達度自己評価においては、全項目において「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」を選択している学生が9割みられる。項目の平均値は、3.5～3.9点と前年度の3.2～3.6点より上昇し、概ね成果が評価はされる。 1単位という限られた授業コマのため、限られたコマ数で効果的な授業を展開するためにも、学修のための主体的行動を支援するための授業展開が今後も検討が必要である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP・CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけは、「専門基礎科目」の「看護実践の統合」と位置付けられている。「看護実践の統合」は、看護関連科目の学習が進んでいく中で統合されていく状況であるが、本科目は、履修学年は2年後期であることから、授業目標を達成するために低学年の学習内容にあわせ、授業内容および方法の検討を行い、計画したものである。結果、最終成績評価からみた場合、概ね目標を達成できていると判断できる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価において、半数の学生が予習・復習を実施していない。具体的な課題提供を明示しないと行動に結びつきにくい状況がみられる。本科目は、健康危機管理事象において、社会的関心を向け、看護専門職としての活動内容について講義していくものである。国内外の事象についての話題提供について、学生が主体的に行動し、今後、学修に取り組む仕組みとして、災害地におけるボランティア活動等との体験を語り合う授業に取り組むことをを検討したいと考える。 授業の質評価においては、前年度全項目平均点3.3～3.5点であったが本年度3.5～3.9点となり、概ね理解されているが、さらに精度を上げていく必要があると考える。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目の達成状況については、授業成績および授業評価アンケートより計画している状況は概ね達成できていると評価できる。 さらに授業内容を精選し、学生の学習意欲を高める講義を検討する。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	岩本 テルヨ

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	4年間の看護学の学習の総まとめをする「専門教育科目・看護実践の統合」に位置付けられる必修科目であるが、学生の受講動機は「関心のある内容である」は0%であった。開講後、それぞれの学生の希望に基づき実習計画書の作成に取り組んだが、授業準備（予習）を30分以上6回行った学生が半数あり、徐々に授業に取り組む姿勢が出てきたと考えられる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績は全学生が80点以上であり、全員がA以上に達した状況である。到達度自己評価10項目において③「まあまあそうだと思う」がおおよそ2/3、④「わりにそうだと思う」がおおよそ1/3を占め、平均値が3.0～3.5であり、自己評価においても目標を達成したと考えられる。 学生の学習量の評価を見ると、「授業を振り返るために、1回30分程度以上の準備・復習をどれくらい行ないましたか」については、①0回はなく、半数が準備については⑤6回、復習については半数が④4.5回以上となっており、学生が努力をしている状況が見て取れる。また、情報利用においても、「シラバスの活用」②参考にしたが5割、「あらかじめ授業の計画を立てた」6割であり、図書館利用もほとんどの学生が「この授業では、図書館の図書、雑誌を利用した」と答えており、成績評価に反映すると考えられる指標が高い状況にある。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・看護実践の統合」に位置付けられ、必修科目である。4年次になり看護実践上の自己の課題を探究するために、学生が主体的に取り組む科目内容であり、看護実践の統合を図るための科目として必要であり、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から全体を通して達成していると考えられ、内容的に妥当であると考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性は問題ないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価における学習量の評価では、「授業を振り返るために、1回30分程度以上の準備・復習をどれくらい行ないましたか」については、①0回はなく、半数が2・3回～4・5回以上であった。また、情報利用においても、「シラバスの活用」②参考にしたが5割、「あらかじめ授業の計画を立てた」6割であり、図書館利用もほとんどの学生が「この授業では、図書館の図書、雑誌を利用した」と答えている。授業の質評価において、「評価基準、学習範囲・課題の明確性」について「少しそうでないと思う」と答えた学生があり、今後はそういった点に留意し、授業を進めていきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	最終年次において、「看護実践の統合」をするために必要な科目であり、現在の所、成績評価もよくDP等も達成できている。しかし、同時期に（前期）約半数の学生は各論実習（約2-4週）のため不在となり、看護総合演習が分断される状況にあり、加えて就職活動もあり、看護総合演習の進め方をどのようにしていくか、課題である。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、看護実践及び専門領域上の自己の課題を探究するために、主体的に既習の知識・技術の統合を図りながら、課題への適切な介入の方法を討議・検討し、実習計画を立案する。看護総合演習での成果を基に、レポートを作成し、実習における実践を考察するものである。そのため、学生個々の課題への達成感を得るために学習段階を学生自身が実感しながら、主体的学習が進むための学習支援を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、94点であり、全員が理想的レベルに達した。 目標別にみると、知識理解に関しては94.0%、意欲・関心に関しては100%、態度に関しては100%であった。 学生の到達度自己評価においては、「自分なりの目標を達した」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」は平均値が3.8であり、それ以外の項目はいずれも4.2～4.7の平均値である。2項目が3.8と平均値が他に比べ低いのは、自分達が取り組もうとしている専門分野の看護に対する対等な判断を認識していることが伺える。 また、図書館の利用についても、全員が活用していることから主体的に学習に取り組んでいる姿勢が伺える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP・CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけは、「専門教育科目」の「看護実践の統合」と位置付けられている。「看護実践の統合」は、看護関連科目の学習が進んでいく中で統合されていく状況である。本科目は、最終履修学年である4年であることから、まさに学習の集大成と位置付けられる。結果、最終成績評価からみた場合、目標を達成できていると判断でき、看護への新たな目標を学生自身が確認できたのではないかと考えられる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	科目が開始した4月～5月の段階では、学生自身がどのように学習を進めていけばいいのか模索している状況が見られた。そのため、「何をしたらいいのか」と具体的方法を探すことに目が行きがちな学生に、文献学習の期間に費やし、議論を進めるための基盤づくりを徹底した。そのことにより、学生自身が看護総合実習で何を学習する意義を見出すか明確となり、実習を意欲的に実施することができ、達成感を得ることに繋がった。また、基盤づくりの準備状況が実習指導者にも評価されることにより、専門職としての意識を高めることにも繋がった。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	今年度、学習段階を踏みながら、基盤づくりのための文献講読に十分な時間をかけたことにより、その後の展開は、学生の主体的学習を可能とした。看護総合演習におけるこれらの教育展開が他の学生にも可能であるか、今後検討していくことが必要である。
------------------------------	---

学科	看護学科
氏名	小田 日出子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、4年間の学びの集大成として、「看護総合実習」の前段に位置づけられた科目であり、学生は3年後期の段階で、各教員のゼミ概要を基に、自らの興味・関心に応じて所属したいゼミを選択・希望する。従って、配置された学生を受け入れる側の教員は、配置された学生は自らの意思で当該ゼミを選択したものと考え、学生の意にそわない配置であったなどとは考えもしない。 今回担当学生の「受講動機」は、これまで同様「必修科目である」(66.7%)に加え、「関心のある内容である」(33.3%)、「単位数を確保する」(16.7%)であった。また、学生の殆どは、予めシラバスを基に授業計画を立てていた。しかし、7名中「無回答」とした学生が1名いたこと、自由記述に「希望のゼミになれなかった」と記載していたことを始めて知るところとなり、その状況での学生の内発的学習動機を高めることができたかには疑問が残る。本授業の中心はグループ学習活動であり、学修の基本は個人の「調べ学習」によるところが大きい。学生は1名を除き、図書館、インターネット等を積極的に活用し、続く「看護総合実習」に向けて、精力的・主体的に学習活動に取り組んでいた。しかし、ここでも「無回答」と記入した学生1名については、本科目の受講自体が不本意であったかもしれず、教員に選択・決定権がない中で、学生配置に起因するこうした問題の発生に気づいた今、次年度、学生を振り分ける作業過程については、何らかの改善手段・方法を検討すべきではないかと考えている。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の学習到達度の自己評価は、DPそれぞれに繋がる(1)から(10)の項目の殆んどで平均値が中央値を上回っていた。しかし、学科平均値よりもやや低値であった。 本科目の中心はグループ学習活動であり、その評価は、思考判断 (DP2)、意欲関心 (DP3) 及び態度 (DP4) による。 具体的な評価割合は、看護総合実習事前準備としての個人の「調べ学習」の成果；レポート(50%)、グループ学習後の口頭発表や個々のプレゼンテーション力 (20%)、実習終了後の報告書等の作成 (10%)、および基礎看護技術演習への参加度・貢献度 (20%)としている。担当学生7名のうち1名を除き、図書館、インターネット等を積極的に活用し、本科目に続く「看護総合実習」に向けて、精力的に、精一杯に、グループワークに取り組んでいた。 学生7名の最終評価は84.6(±3.96)点 (最高90点、最低80点)、成績の内訳は秀2名、優5名で、当該科目履修者7名全員の履修を修了した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機を「必修科目である」(66.7%)とした学生は多かったが、「看護総合実習」と連動する「関心のある内容である」(33.3%)とした学生も1/3いた。一方、「希望のゼミになれなかった」学生も1人おり、その学生にとっては「単位数を確保する」(16.7%)ことが受講動機となっていたように思う。 学習到達度の自己評価については、DPそれぞれに繋がる(1)～(10)の項目のうち、(4)「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」(4.0)のみが学科平均を上回っていた。他の9項目については、いずれも学科平均値とほぼ同等若しくはやや低値であった。「看護管理」という観点からは、一面的な見方にとどまらず、多角的・多面的に事象を捉えることの必要性・重要性に気づくこと、既習の知識や根拠となる事実に基づいて「問い」をもつこと、「問い」への「答え」を導き出すためにとことん「考える」力を得ることに繋がったのではないかと考える。 以上のことから、思考判断 (DP2)、意欲関心 (DP3)、態度 (DP4)、また全体を通して、学生は目標を「概ね達成できた」と判断する。 成績評価については、個人の「調べ学習」の成果；レポート(50%)、グループ学習後の口頭発表や個々のプレゼンテーション力 (20%)、実習終了後の報告書等の作成 (10%)、および基礎看護技術演習への参加度・貢献度 (20%)を総合的に評価した結果、担当学生7名の最終評価は、84.6(±3.96)点 (最高90点、最低80点) となり、成績の内訳は秀2名、優5名であった。従って、内容的にも妥当であったと判断する。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本授業は、4年前期、メンバーの一部に各論実習が進行している中で、学生状況に応じた変則的スケジュールを立て、概ね7月末の完成を目標に、実習へと繋ぐ学修の準備を進めている。途中、基本看護技術の振り返りと知識・技術の定着化を図る目的で、一昨年より、1年生の「看護技術論」（前期）、「生活援助技術」（後期）、「ヘルスアセスメント」（後期）、さらに2年生「診療関連技術」の各授業と本授業をリンクさせ、10～11月までと時期を限って、1年生に対するSA（Student Assistant）を依頼し、基本看護技術の指導に当たっている。1年生にとっては、身近な4年生を先生役として直接指導を受けることで、些細な疑問でも聞きやすく、また「同じ苦労」を味わってきた経験から、困ったり悩んだりする点も共通する先輩との関わりの中で、看護技術習得への関心・意欲の高まり、技術演習への積極的な参加など、姿勢の変化に繋がった。4年生についても、他者に「教える」という体験を通して、最終学年であることの自覚や自分自身の知識・技術の振り返り、また、より深い知識獲得の機会となっていた。100名を超える1年生に看護の基本技術を確実に修得させることは容易でないが、4年生の力を効果的に取り入れることで、1年生、4年生の双方に、関心意欲（DP3）、技能表現（DP5）の点での相乗効果が得られたと感じている。何より、1年生へ刺激は大きく、4年生の先輩の姿に、自分自身のこれから、4年後の自らが目指すべき姿を具体的に思い描けたようである。主体的学修者としての4年生の変化にも繋がった。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生は、本授業を通して達成すべき学修目標を概ね達成できており、標準レベル以上の到達度であったと考える。 次年度に向けての課題として、以下の3点を継続して検討し、改善策を見出したい。 ①「希望のゼミになれなかった」との思いを引きずってゼミに加入してくる学生の存在に一早く気づくための仕掛けをどうするか。 ②「希望のゼミになれなかった」との思いを引きずってグループワークを行っている学生の意欲・やる気をどう引き出すか。 ③①、②の状況にある学生の内発的学習動機をどう高めるか、具体的にどんな介入ができるか。 ④「調べ学習」等、「授業に関することで精いっぱい」とした記述を受けて、学習量の適切性はどうか。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	新木 真理子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	メンバー7名のうち、9月卒業生が1名含まれていることから、全体のスケジュールの見直しを行った。9月卒業の1名と他の6名の、特に前半のスケジュールがずれると、抄読会で議論することに困難が生ずるため、最終レポートの提出を例年よりも早めた。臨地実習は施設の都合もあり、それほど早めることはできない状況のため、実習に出る前までに、自己の課題についての文献学習を充実させ、実習ではそれを検証するという方法をとる計画を立てた。5月はほぼ全員が各論実習に出るため、自己の課題を明確にするための抄読会は、4月、6月、7月とした。レポートで、例年の事例中心のものから、文献研究的要素を強くしたため、開始時に、論文構成や文献検索等の基礎知識を再学習し、臨地実習に出る前までにある程度論文の仕上がりが可能になる予定で進めることとした。また、老年看護特有の技術演習については、片麻痺患者の自立度による移乗動作の要点の違いについて、実際にロールプレイを通して自主的に技術演習を行う予定を立てた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	やや達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終成績の平均点は82.9点であり、実習計画書の作成、学内での技術演習、臨地実習での実践、最終レポートの提出と、それぞれの課題は果たしたため、達成と考える。また学生の自己評価においても、専門分野のさまざまな課題を検討する力やコミュニケーション力や表現力を高める力等は、評価点が比較的高く、これらはこの科目のめざすべき目標に通じていることから、学習効果はあったと考える。ただし、「説明がわかりやすいものだったか」の評価点は低く、今年度から変更した、前半の文献学習中心とした作業は、教員側の思いと学生との間でずれが生じていた可能性が考えられる。文献学習を中心としたレポートは、学生にとっては想像よりも難易度が高く、従来行っていた事例中心のレポートの方が、学生が問題意識を持ちやすく、モチベーションを高く維持できたのではないかと考えられる。期間中の各提出課題については、全員がそれぞれ真摯に受け止め、教員とのかわりを通して仕上げていったプロセスがあった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は、「看護実践の統合」に必要な科目である。看護を学ぶための基礎、看護実践の基本、看護実践の応用・展開と進み、それらすべての知識・態度・技術を統合するものとして位置づけられている。看護実践及び専門領域の自己の課題を探究するために、主体的に学ぶためのグループ議論や演習、実習の場が設けられている。各領域別実習がほぼ終了（一部領域を除いて）した時点で、時期的にも内容的にも妥当である。 ②DP、行動目標からみた内容的妥当性 老年看護領域における学生自らの関心に基づき、課題を明らかにし、その課題に沿って実習計画を立て、臨地実習に行き、主体的に実践を行い、自ら自己評価を行い、最終レポートを提出する、というプロセスは、この科目の行動目標に沿ったものとなっている。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題がないと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今年度は例年と方法を変えて臨地実習に出る前の時点までに文献学習を充実させ、それをレポートに反映させる、レポート提出期限を早める、という方法をとったが、学習効果としてあまり効果的でなかったと考えられることから、次年度は元の形にもどし、レポート提出期限も早めない方向で考えていきたい。年々、文献読解力が低下している傾向にあるため、それを直接レポート内容に求めるのではなく、抄読会において、老年看護領域における身近な課題を学生同士が、自らの自発的に湧き出る関心を中心に議論できるよう、さらに工夫を重ね、それを文献読解力に結びつけたい。幸い、老年看護看護は現代の大きな社会的課題であることから、切り口はさまざまに創意工夫の可能性はある。卒業前の学生が生き生きと議論することで、卒後社会人として生涯課題をもち進めるようなきっかけ作りを行う必要がある。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	課題への適切な介入方法を討議・検討し、実習計画を作成し、主体的な看護実践、実践後の自己評価及び最終レポートの作成を行なうことで、看護実践及び専門領域上の自己の課題を探究することができたため、この科目の目標はほぼ達成できたと考えられる。今後の課題は、教員は、前半の抄読会における、学生がさらに関心を持ちやすい身近な現代的課題を、学生自らの課題にどう結びつけていくかの橋渡しを行い、学生が自ら見出した課題に生き生きと向かい、看護を学ぶ者としての仕上げに臨めるよう支援していくことである。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	看護総合実習の事前、事後の演習として位置づけられた科目である。学生は、2施設で実習を行う。今年度から、1施設は新規施設であったため、事前の企業の概要等は理解できたものの、演習計画に十分反映できなかったことは反省点である。実習施設が遠距離であるため、事前に学生が訪問して準備を進めることができない。それを見越して、指導者との調整を含め、主体的な実習計画立案への効果的な指導に課題を残した。次年度に生かしたい。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終評価となるレポート（平均及び中央値85点）では、文献を活用して看護総合実習で計画した看護技術に関する文献を収集し、活用。実施した内容を結果に基づき、さらに文献を引用して考察を行うことができた。演習への参加態度は良好であった。以上より、全項目で「達成した」と考えられる。当該科目の履修者は6名、提出者は5名と少数であるため、評価は中央値と5段階評価の構成割合でみる。 達成度自己評価では、全ての項目で「⑤かなりそうだと思う」が0名であったことは今後改善する必要がある。「③まあまあそうである」が100%だった項目は「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」であった。最も低かった項目は「②知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「③事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「④自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」で60%であった。 「学修のための情報利用」「図書館、インターネットの利用」では100%であった。提出されたレポートでは、文献を活用し、レポート作成ができていたが、学生自身の達成感が不十分であったことは反省すべき点である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみて、内容的妥当性はある
---	-------------------------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価では、「⑤かなりそう思う」の項目は0名であった。「④わりにそう思う」が多かったが、1項目＜期間中に行うべき学習の範囲や課題があきらかであった＞では最も低く「③まあそう思う」のみであった。次年度は、演習計画の説明を具体的に提示する。また、「③本科目は、各自が主体的にテーマを設定し、課題を見出して解決していく方法を見出していく過程で、必要な専門的知識や技術及び態度を追求していくものであるが、その時々、何を今考えているのか、そこにどんな知識、技術等が必要になるか、それが得られたか等々、意識してフィードバックを行っていきたいと考える。 「学修のための情報利用」「図書館、インターネットの利用」では100%であった。提出されたレポートでは、文献を活用し、レポート作成ができていたが、学生自身の達成感が不十分であったことは反省すべき点である。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業計画の充実と、学生への提示の方法の工夫。また、各回で行う学習課題の見直しとゼミでのコメント力の強化が課題である。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機で、「必修科目である」だけでなく、「関心のある内容である」と答えた学生が6人中3人いたことに嬉しく思った。受講生に受講動機を聞くと、在宅看護領域は第1希望でなかった学生ばかりであったが、自分が臨床実習で残した疑問や、やり残したと思ったことをテーマにしたことが、関心のある内容の学習と感じてもらえた要因であろう。 看護総合演習は看護総合実習の前後で開講し、文献学習から実習目標の策定、実習後の卒業論文作成までを実施する。初回に、看護総合演習・看護総合実習計画を配布し、さらに、国家試験準備、就職活動と並行して実施するための見通しを立てた。それをもとに、3人の学生が「授業を受ける計画を立てた」と回答してくれたが、2人が未記入、1人が立てなかったと回答しており、計画立案と意識づけの必要性を感じた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	4月と臨床実習がない時期は、ほぼ毎週、文献検索とプレゼンテーションしたため、学生は負担もあったと思うが、よく調べて発表してくれたと感じている。授業評価では、6人全員が図書館で学術データベースで検索し、図書や雑誌を利用したと回答している。このことは、大学生としての主体的な学びを身につけ、研究的な視点を養う基盤ができたと評価できる。 しかし、途中から臨床実習で抜けるゼミ生がいたり、就職活動が入ったりして、個人差はあるが、調べる内容やプレゼン用の資料の質の低下がみられた。その分、論文作成時に考察に使う文献が足りなくなり、さらに図書や雑誌を調べることになったため、最終的には学びの質は保てたと考える。 最終評価には、全員が論文形式のレポートを提出でき、合格できた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	看護総合演習は、学生にとっては4年間の総まとめともいえる科目である。自分で領域および教員を選択できる唯一の科目でもある。関心を持つ領域を選び、テーマを決めて実習目標を考え、その結果を根拠をもってまとめる。自分が計画的に主体的に取り組まなくては進まないため、看護総合演習のプログラム終了時には、DP2（思考判断）、DP3（関心意欲）、DP5（技能表現）は達成できている。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、「学習の範囲や課題は明らかであった」「説明はわかりやすいものであった」「学生が参加する機会が創られていた」「学生の質問を受けつけ、それに答える機会が作られていた」が平均値より低い値であった。週1回、文献を要約し、プレゼンテーションし、メンバーでディスカッションする場を作っていたため、学生の主体的参加が可能だと考えていた。しかし、学生が求める対応ではなかったことが明らかにされた。 「学習の範囲や課題が明らかであった」に関しては、看護総合演習の科目の特性から、教員が求めるものではなく学生が自らの課題を見出し学習していくものであり、「何を、どこまで」は、学生の主体的行動に委ねられる。このことが説明不足であったと考える。学生が面白さを感じながらすすめられるよう、改善していきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	看護総合演習は、少人数で学生主体で行う科目である。また、卒業論文に相当するものであるため、学生に難度の高い要求をしてしまう。科目の特性を十分説明して理解をえることが、主体的学習に最も必要な事である。「何を、どこまで」を学生自身が考え、行動できるように動機づけしていきたい。また、メンバーでディスカッションする場では、自由な意見交換ができる雰囲気と、明確なディスカッションの課題も必要であることがわかった。 大学を卒業したら、さっそく1年目から事例発表、2年目から病棟での研究的活動に参加するようになる。卒業後、課題を見出し、研究的に取り組むための基盤となる方法を身につけられるように、計画していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	飯野 英親

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	看護学科最終学年の臨地実習科目であるため、看護現場に対して総合的な立場から、看護実践を俯瞰できるような視点を持ってもらうために、実習目標を組み立てた。今年度は、とくに大学病院の地域連携部門での実習を重視し、前方連携・後方連携の重要性について学習できるように準備した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		やや達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	医療安全分野では危険予知トレーニングの事前学習で、教材を作成し、それを持って臨床現場での研修に活かせるか否かをシュミレーションした。この過程で、図書館の所蔵だけでなく、複写依頼をかけた文献を20本程度読破して事前学習に臨んだ。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	看護師養成所の指定規則に沿った科目であるため重要な科目であるが、就職試験の時期と重なるため、十分な集中力を発揮しにくい時期での開講である。後期になると国家試験の準備期と重なるため、異なる問題が発生しやすい。こういった時期的な課題を抱えながらCPを作成しているが、自由意見を見ると就職後に役立つと感じている学生が多いことが確認できた。2単位科目であるため、見学実習に留まらず、現場の実践体験が含まれるからであろう。内容的な妥当性は確保されていると考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は4年生前期、必修科目である。6名の学生を担当した。受講動機は、「必修科目である」100%、「関心のある内容である」「単位数を確保する」20%であった。ほとんどの学生は急性期看護を第一希望していたが、受講動機は必修科目と回答が多かった。 ②看護総合実習の準備として、各学生の希望にそって実習部署の依頼を行った。今年度の希望部署は、消化器外科2名、手術室3名、救急外来1名であった。計画書に必要な論文検索および論文抄読、実習目的にそった事前課題の準備および成果発表、実習に必要な基本的な技術の習得（清潔の援助技術、観察技術、心電図、輸液演習など）、手術直後の観察演習の模擬患者役を通して患者体験および観察視点の復習を行い、実習に向けての知識および技術の習得を行った。 ③看護総合実習計画書作成指導を行い、学生が主体になり、実習の目的を達成するための支援を行い、目的に応じた計画を立案できるようにしている。 ④看護総合実習後に実習をととして、ケースレポートの作成を行うために、基本的な論文作成の説明および記載方法を指導している。 ⑤前期は看護総合実習の準備とあわせて、就職試験の時期と重なるため、就職試験および国家試験対策の支援を行っている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		やや達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価は、平均値88.3(±2.6)であった。全員が理想的なレベルに達していた。その理由としては、実習前の事前課題は、実習中に使用することができた内容であったこと、実習をととしてケースレポート作成に必要な情報を十分得ることができていたこと、その情報をもとに目的にそった考察を行い、自己の看護観を述べることができていたと評価することができたためである。学習に際して、図書館の利用率も高くみられた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「看護実践の統合」に位置づけられており、学生は既習の講義・演習・実習をととして、急性期看護について深めたいと考えて受講しており、自分の目的を達成するために実習計画書を作成することができていた。学生の到達度自己評価をみると、3.8-4.3で平均値4.2点であった。学生は実習に向けての目的のために事前学習および技術演習に取り組むことができていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断は達成度がやや低い、計画立案は目的を明確にすることができており、目標にそった実習をととして得られた情報をもとにケースレポートを研究論文の書き方で記載することができていた。さらに自己の看護観を見いだすことができていたことを踏まえて、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては、4.0-4.3点で、平均4.2点であった。 演習中は発表を取り入れるなど、学生の成果を共有するように努めた。消化器外科、救急外来、手術室での実習を行ったが、異なる部署における看護についての知識の共有に繋がったと考える。 今後も、知識のみではなく技術を取り入れ、学生が主体的に学習することができるようにしていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は「看護実践の統合」に位置づけられており、学生は既習の講義・演習・実習をとおして、急性期看護について深めることを希望して受講している。既習の知識・技術を活かして、各自で計画書を作成して実習を行い、さらに実習の成果をレポートとして論文形式で作成することができており、概ね達成できたと考える。 しかし、今後は急性期看護を第一希望としていない学生も含まれることが考えられるため、学生の希望理由を把握して、学生が急性期看護を深めることができるように指導を行っていきたい。 本科目は看護総合実習の準備および実習後のレポート作成指導に重点をおき、急性期看護について深めるための支援を行っていくだけではなく、この時期は就職試験や国家試験へ向けての時期でもある。そのため科目履修の支援だけではなく、学生の就職活動や国家試験へ向けての生活に根差した指導を行っていきたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	梶原 江美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	大学生活最後の学年であり、看護総合実習に向けて、自ら実習課題を具体的に見出し、計画を立てて実行、振り返ることができるように下記の点を工夫した。 ①初回到看護総合演習の全体スケジュールを提示する。 時間割上に記載がないことと、各論実習が継続している学生が多いため、看護総合実習までの間に、「いつまでに何をどの程度進めるのか」「進めていくためには、どのような準備が必要か」というQRを丁寧にするよう心掛けた。 ②個人の持つ類似テーマのカテゴリによってグループ活動にする。 学生個人によって、総合実習で取り扱うテーマを決めるが、例年類似のテーマが多かった。これまでは、個人でテーマに沿って作業を進めていたが、時間的な課題もあったため、本年度は類似テーマをカテゴリとし他グルーピングを行い、グループダイナミクスを働かせて実習に臨めるようにした。ただし、抄読会の担当は必ず個人が一度は行うようにし、発表会での質問への応答は、発表者以外が行うようルールを設けた。 ③パワーポイントでの発表会と抄録、レポートをグループで作成することで、プレゼンテーション力と文章の要約力をつける。 グループで全体の構成や文章の要約、パワーポイントでのスライドの作成などを行うよう指示した。これは、卒業してからのケースレポートのまとめや病棟で取り組む研究を意識して、基本的なことについて学ぶ機会とした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均点は、80.9点で、7名全員が優だった。学生は個別に真面目に取り組んでおり、アンケートにある情報利用の「あらかじめ授業を受ける計画を立てた」「教員のオリエンテーションに沿って計画を立てた」が全員「立てた」とあり、自分で時間管理をしながら準備を進めていたことがうかがえる。また、到達度自己評価でも、中央値が4.0とおおむね達成感につながっており、学生同士でモチベーションを維持しながら計画立案、総合実習、振り返りの発表までできたと考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、看護実践の統合にあたる必修科目である。最終学年ということもあり、就職や国家試験を控えた学生にとってもその認識は高い。内容的に妥当性は確保できていると考える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価及び学生の到達度自己評価の両側面から見て、妥当であると考えている。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、各項目の5段階評価は、平均3.6～4.3と高い評価を受けた。理由として、初回に全体スケジュールと内容を明示した点にあると考える。 しかし、「図書館やインターネットの利用」で全員が利用していなかったことに対して、本当にそうであったのかが疑問である。抄読会や文献整理には、医中誌で3年分の原著論文の検索をして、全体を把握するように指導をしていたからである。もう少し、細かく途中の経過を把握するよう心掛けたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	達成状況の総括的評価としては、概ね達成できていると考えている。 学生の多くは、そのことを認識して、積極的に学修をしていることが成績評価および学生の到達度自己評価からも確認できた。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は「看護実践の統合」の科目として4年生の必須科目である。各学生が自己の課題を探究するため主体的に既習の知識・技術の統合を図りながら、課題に対して看護介入する方法を検討し実習計画を立案する。また、看護総合実習の成果をレポートとしてまとめ看護に対する考察を行う。これらの過程をグループ間で共有し、意見交換をすることで学びを深め、要約としてまとめることにより、課題達成を目指す。学生の主体的な取り組みであり、学習の範囲は不明確だと感じているが、個人面談を密にすることで、課題の明確化や思考の整理と看護の方向性を見出すことが出来た。レポートをまとめる段階において学生とスケジュールを調整し、学生の意欲と達成感が高まるよう関わった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された	達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	グループの学生は6名であり、成績の平均値は83.3点で、全員が80点以上のレベルに到達できた。しかし必須科目であるためか学びを深めたいという意欲を持つことに「ややそうでもない」と答えている学生が1名おり、6名の学生すべてが動機づけられたわけではない。総合実習の事例展開や、論文にまとまる段階など、各段階における達成状況を確認しながら動機づけができるよう工夫したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 看護総合演習は、看護総合実習の事前事後学習として位置づけられている。学生の希望により領域が決まり、自己の課題を明確化し、実践していく過程が学びのプロセスだと考え、また、一定の評価を得たことから内容的妥当性はある。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は看護学科4年間の学びを統合し看護実践能力を高め、今後も専門職として主体的に看護を探究する動機づけとなるものである。成績評価、学習態度などもおおむね良好であったことからCP、カリキュラムマップ上から問題はないと考える。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性は問題ないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方は自己の課題を明確化することから始まるため、個人やグループ面接、グループ討議を通じて理解を得ながら進めた。学習量は個人差がみられるが1回の準備時間を30分以上を2、3回以上実施した学生が6人(100%)いた。また振り返りにおいても同様に実施していた。主体的な学習を行い、グループ内のディスカッションも有意義に行え授業も進行できた。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は「看護実践の統合」の科目として4年生の必須科目である。学生から社会人への移行にある各学生が主体的に学び・実践し看護を探究する姿勢を育む重要な科目である。思考や判断に自信が持てない学生が少数数おり、思考の方向性を見極めながら個別の対応を今後も進めたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	小野 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	毎年、本科目については学生の選択により基本的に小児看護およびその関連領域に将来就職を希望する学生が受講するが、講師以上の看護師資格を有する教員全員で担当するため、均等な配分を配慮して第1希望でない学生も含まれるのが現状である。今回6名担当したが1名のみが受講動機で関心のある内容であったと答えている。受講者が決まった後早い時期に個人面談をして学生の受講理由や将来計画等も確認し、演習・実習が卒後のキャリア支援に繋がるよう科目への取り組み方をともに考え、小児看護領域にも興味関心が持て自主的に取り組めるよう工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	6名の最終成績は平均81点であり、再試対象者は0人であった。総合実習がNICU・GCUでの実習と、小児救急センターでの実習が主になるため、それぞれの実習に向けて演習内容も自主的に計画し実践していた。同時に実習での個々のテーマを決め文献検討を主としたレポート作成を行った。レポートは、まだ文献を読み込み根拠を元に自分の考えをまとめることをわかり始めたところである。到達度自己評価では、各々3.5から4.5と概ね知識や技術等を得ることができていると評価している。ただ、職業倫理や行動規範について学ぶことが少しできなかったとする学生もいるため、今後は看護師として子どもや家族の権利をどのように守るか等も含め意図的に考えるような内容を組み入れる必要がある。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の到達度自己評価によると「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」4.5、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」4.2であったことから、内容的妥当性はあったと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	毎年、5、6月に残っている受講生の領域別実習やを踏まえて演習計画を立てている。今回は学生の学習準備状況が比較的ばらばらであったため、グループとして進めていくには難しい状況もあり、個別の対応も多かった。ただ今回は口答での指示・説明がなかなか指示したようには伝わらなかったことがたびたびあったことから、今後は書面での（メール等）指示確認を追加することが必要で、指示の伝達を確実にしていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	看護総合実習に向けた事前準備として演習を組んでいるが、実習施設が多く、前年度の4施設からより1施設減らしたとはいえ、小児で与えられた9日間で3施設の実習準備は、やはり学生にとっては負担となっている。個々の実習施設での学びは貴重なものではあるが、限られた時間での実習であるため今後さらに検討をしていきたい。来年度は、遠方にある小児専門病院での2日間の実習を1日の見学実習にかえ、主となる実習施設での学びを深めることができるようにすることで、事前準備も焦点を当てやすくなると考える。また、学生の就職試験や、臨地実習の状況で、課題の提出日や内容を変更したこともあったが、学生が混乱をすることもあったので、今後は全体のスケジュールは基本変えず、状況による対応は個々で行うようにしていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①看護研究演習を選択しない学生がほとんどなので、本科目は4年間の集大成の役割をする科目となる。卒業論文の代わりとなるようなものを仕上げることを目標とし、前半はグループで進め、後半は個別指導中心の丁寧な授業を進めた。 ②内容の充実を図る目的で学生のテーマを大切にしながらフィードバックを行い効果的な指導ができるように心がけた。 ③卒業前最後の年度になるため社会人としての基礎知識やマナー等にも留意して演習を進めた。 ④本科目と各論実習、就職活動、看護師国家試験の準備が重なり、学生は負担が大きいがすべてがスムーズに進むように、スケジュールを提示し、微調整をしながら進めた。 ⑤授業時間だけでなく、授業外の時間やメールを活用して、意欲を高めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		やや達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の到達度自己評価の平均は、3.4で概ね肯定的な回答であった。図書館、データベース、インターネット等を授業の課題のために全員が利用したと回答している。学習量においては十分な時間をかけているのか不明などところもあるが、文献クリティックの取り組み状況や、ディスカッションの内容、およびレポートの内容は、学習を反映したものとなっていた。演習が進む経過から、テーマに対する意欲、関心の高まりが感じられ、短い期間の中においては全体を通して目標は達成されたと考える。しかしながら、論考が十分だといいい難い面もあり、思考判断において「やや達成された」の評価となった。国家試験対策の学習との兼ね合いで学習時間がとりにくいところもあるが、できるだけ思考の深まりができるような時間調整の工夫や指導方法を検討したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価では、DP項目において教育目標が達成されており、本科目のDP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は看護学科4年間における学習成果の集大成として看護実践の統合科目としての位置づけである。学生の自己評価、学習に取り組む姿勢、成績が高かったことから、CPおよびカリキュラムマップ上の問題はないと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートでの学生の学習量は、十分確保されたとはいいがたいが、図書館の利用については、「授業を通して図書・雑誌を利用した」「CiNiiなど学術データベースを検索し利用した」の割合は100%となっている。学生は、授業中のディスカッションや個別指導された内容などについて次回の授業までに調べて考察することができていた。また、授業時間以外に必要時はメールで指導するなど、学生のモチベーションを下げることなく、学習を進めることができた。結果、学生の主体的・自発的な学習態度は引き出すことができたと考える。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	4年次開講の科目であり、各論実習、就職活動、看護師国家試験の学習と同時並行で行わなければならないため、学生にとってテーマに取り組む時間の確保が難しいことが予想された。これを補うために、スケジュールを提示し、学生それぞれの進行に合わせて微調整をしながら個別指導を進めた。このことは学生の負担軽減になるとともに、テーマについて深く思考できることにつながり、学生の自己評価を見ても効果的であったと考えられる。本科目の履修は学生にとって負担感があると思われるが、4年間の集大成として学びの獲得は大きいので、意欲的に取り組めるように工夫していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	看護総合演習は必修科目であり、看護総合実習の事前事後の演習として位置づけられている。今回の受講動機をみると、「必修科目である」が100%で、次に「単位数を確保する」が14.3%であった。この科目を必修と認識しているが、学校保健という分野の実習が初めての学生がほとんどであった。学校保健の実習に行くための基礎的な知識が不足している。その点について、知識理解を深める授業内容を組みこんでいる。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績としては、85.9点(±5.7)であり、全員が優・秀の成績であった。目標別にみる達成度は、思考判断が92%、意欲関心85%、技能表現84%であった。学生の到達度評価における平均値は3.3～3.9であった。到達度自己評価としてはあまり高くなかった。この分野が初めての経験であることが関係していると考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①カリキュラムマップの位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」、看護総合実習の事前事後の演習として位置づけられた必修科目である。この学校保健分野は、看護職と直結しない分野であり、動機づけには苦慮する。この点に応えるよう工夫し、学生も十分な成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から、すべての項目が達成されている。内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性に問題はないと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価は、3. 1～4. 1であった。「学習範囲や課題」の提示、授業の「説明の理解しやすさ」は、低い結果であった。この点については、既習知識が少ない点に関係していることが考えられる。事前課題（基礎知識の理解）の確認を行っていきたい。 「情報利用」のシラバス活用については、学生が計画を立てるようさらに検討したい。 「図書館の利用」については学生はレポートを作成するために、全項目、全員が活用していた。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	看護総合演習は必修科目であり、看護総合実習の事前事後の演習として位置づけられている。総括的な位置付けであるが、この分野を初めて実習する学生がほとんどであった。そのため、この分野の基礎知識が不足しており、この知識を理解していく時間確保が必要になる。その結果、実習後のレポート作成の時間が不足することが課題としてあげられる。学生自身がコミュニケーション力や表現力を高めたと評価した点は、討論を取り入れた参加型の講義という点で評価できる。 以上のことから、各自のレポート作成について、3年次の「看護研究の基礎」の講義を確認しながら進める、さらなる個別支援を考えていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	財津 倫子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	看護総合演習では、 ①専門領域における自己の課題を明確にし、実習の目的を明らかにした。その目的にそって文献を検索させ、実習動悸をまとめる作業を行う。と同時にタイムスケジュールを立てるよう指導する ②実習動悸をまとめた後、どのような実習を実施したいかが明らかとなってくるため、合わせて事前学習と目標を作成するよう指導した。 ③実習期間7日間の実習方法と内容を実習目的を考えながら作成させた。 実習計画書がほぼ出来上がったところで、技術演習として、挿管時の看護・心電図の装着を実施する（事前学習をさせ、当日は学生に質問をする形で進める）。清潔援助については、実習前に学生が自己練習を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均点は、82.1点であり、全員が標準的レベルに達したと判断する。目標別にみると、知識理解83%、思考判断80%、意欲関心71%、態度は88%であった。全体的に真面目に取り組む姿勢が見られ、目標達成に反映された。 7名全員が、授業の準備と復習に多くに時間を（30分以上を2回～6回）費やしていたことがわかった。そのことも、目標達成に反映されたと考えられる。また、図書館・インターネットの利用を全員の学生が実施できており、情報利用の学びにつながっている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、4年間の集大成ともいえる科目である。学生が一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価では、知識理解83%、思考判断80%、意欲関心71%、態度は88%であった。学生の学習到達度の自己評価をみると、7名全員目標を達成したと考えられており、平均点の82.1点から考えても、内容的には妥当であったと考ええる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、全員が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそう思う」と回答しており、平均値も3.7から4.3であり、概ね説明は分かりやすく質問に対する対応もできていたと考える。 1名の学生が、CiNiiや学術データベースを利用しなかったとしているが、全員に利用方法を説明し検索させているため、全員利用はできている（医中誌やCiNiiの中から良い文献を探し出せなかったと報告を受けている）。今後も、利用方法の説明を続け、学生が戸惑うことなく文献を活用できるよう指導をしていきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	目標については、概ね達成できたと考える。 実習が終了してから、報告書をまとめるにあたり必要な情報が不足している学生が存在した。 実習報告書のアウトラインを実習前に決め、実習期間7日間の実習方法と内容を作成させる際に、いつの時点でどのような情報収集が必要となるかを事前に明らかにする必要がある。次年度は、報告書のまとめ方も視野に入れた指導を展開したいと考える。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	松下 智美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、専門教育科目のなかの『看護実践の統合』の位置づけとなる科目である。 既習の知識・技術を統合して、慢性期・終末期の患者への看護実践能力を養うことを目的とする「看護総合実習（慢性期・終末期）」に連動した科目でもある。 また、学生から看護師への役割移行期であることをふまえ、責任ある行動や自主的・意欲的な態度を養うことも目的としている。 そのため、「看護総合実習」と連動した形で、実習前から実習後にかけてゼミ形式で取り組み、実習での学びをより効果的にするための自己課題の明確化、文献検索、実習目的・目標および計画案の作成、実習における学びを科学的視点、客観的視点での振り返り・実践の分析を通して、自己課題に主体的に取り組む学習姿勢の育成と、問題解決思考を高めるために意識的に働きかけを行った。また、個々の気づきや学びを引き出すように関わり、個別の特性や進捗状況に合わせた指導をきめ細かく行った。個別指導だけでなく、グループ間でも学びを共有できるようにグループワークや発表会を計画し、適宜実施した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		やや達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は88.3点であり、全員が理想的レベルに達することができた。DP別では2-1が83.3%、DP3、4は100%であった。 これは、関心のある看護の領域でゼミを選択しているため学習への準備状況が良いことと、少人数での学習であること、個人個人の責任において実習計画の立案や学びをレポートとしてまとめることを課していたために意欲・関心を持って積極的に取り組むことができたためではないかと考える。学生の自己評価においてもほとんどの項目が「まあまあそうだと思う」～「かなりそうだと思う」に分布しており、学生自身も達成感を得ることができたのではないと思われる。また、学習量や図書館の利用状況（全員が図書館の図書、雑誌、学術データベース、インターネット等を活用している）からも、積極的に自己学習に取り組んだものと評価でき、教育目標は達成できたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は専門教育科目のなかの『看護実践の統合』の位置づけとなる科目である。 必修科目であるため、全員が「資格取得に必要なである」が選択理由ではあったが、一定の成績を修めていること、学生の自己評価でも到達できたと評価していることから内容的には妥当であると考ええる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」で大半の学生は肯定的評価であったが、1～2名が「少しそうでないと思う」と回答しており、この点は全員に明確に伝わるように改善・工夫が必要であると考えます。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

統合科目として必要な到達レベルを達成できており、意欲面、態度面においても学生がモチベーションを維持しながら修了することができていたことから、本科目の目的、目標は達成できたと考えます。ゼミのメンバーは毎年変わるため、個々の特性や関心事にあわせた個別性のある指導方法を今後も工夫していく必要がある。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	飯野 英親

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
遺伝看護学	4	後期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	「遺伝」という言葉から、おそらく多くの学生が抱いている「世代を超えて伝わる」というイメージを変えて、臨床現場の検査・治療の大きな根幹をなす「遺伝医療の理解」に重点を置いて教授した。受講動機からは、なんとなく興味があった程度だったものが、他の人にも受講してほしいといった意見があり、これからの医療での必要性を認めていた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講者数が少なく、少クラス対話型の授業スタイルが確保できていたので、平均点が80点以上であったと考えている。用語が難解であることが多い科目であるが、C、Dの評価者がいない結果になったので、授業目標は達成された。選択科目であるため、学習意欲の高い学生が受講しているとも考えられた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	周産期医療、がん医療、神経筋難病など、遺伝性疾患は多岐にわたる。そのため、最終学年でないと、多くの診療科の疾患に対する遺伝カウンセリング内容を説明しても、理解が困難と思われる。用語の理解が難しいため、教科書持ち込みの定期試験にして、単に知識を確認するだけでなく、例えば「いとこ婚」の遺伝的リスクについて説明するといった、理解に基づかなければ解答できない問題を組み入れることで、質の確保に努めた。上記から、内容としての妥当性は確保されている。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	村山 由起子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
救急・クリティカルケア看護学演習	4	後期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①3年生前期に既習した「救急・クリティカルケア看護学」の知識を基盤に、救急・クリティカルケア看護を必要とする危機的な状態にある患者及び家族の看護について解説を加えた。特に人工呼吸器装着する患者の看護について、知識だけではなく、実体験を通して人工呼吸器装着する患者の苦痛や看護の根拠について学ぶ機会とし、講義・演習を振り返り、救急・クリティカルケアにおける看護師の役割について各自レポート作成し発表を行い、学びの共有を行った。 ②救急・クリティカルな状態・状況における患者及び家族に対する倫理的課題や調整について、事例を提示し、グループワークを通して患者・家族・看護師の葛藤について考え、看護師としての行動について考える機会とした。 ③学生の受講動機では、「教員に勧められた」が52.9%と、ほぼ半数の動機になっていた。「関心のある内容である」とする学生は、17.6%であり、自身の希望による受講は20%を切っていた。 ④外部講師の集中ケア認定看護師による演習を行った。実際の人工呼吸器を用いて、人工呼吸器装着中の患者体験と根拠を押さえながらの看護を実践をすることで、知見を深めることができた。その結果、自由記述に「人工呼吸器がとてもわかりやすくて良かった」とあり、学生の興味関心と知識を高めることができたと考えられる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		やや達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の履修者は17名であった。最終的な成績の平均値は、88.7点 (SD6.8) 点であり、A判定 (90+) 8名、B判定 (80-89) 8名、C判定 (70-79) 0名、D判定 (60-69) 1名、E判定 (59-) 0名であった。94%が理想的レベル (80点以上) で、ほぼ全員が標準的なレベルに到達したが、1名は最終レポートの発表にいたらなかったためD判定となった。DP別では、「思考判断について」は84%、「意欲関心について」は85%、「態度について」は95%であった。全体的に講義に対して、真面目に取り組む姿勢がみられ、目標達成に反映された。 学生による授業評価においては、「到達度自己評価」をみると、平均値は3.3-3.9に推移しており、7.2%の学生は「かなりそうだと思う」と回答しており、すべての項目において、9割以上が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答していた。しかし、1%は「少しそうでない」と回答しており、この1%の学生に対する学習支援が必要であると考えられる。 講義時間内に、集中して講義課題に取り組める授業構成としており、そのことが学習量の評価の「準備時間」が少ない結果となったと考えるが、自由記述に「授業中に集中した」とあるように、講義時間内に集中して課題に取り組んだことが、目標達成につながったとも考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①C P、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の「看護実践の充実」に位置付けられる。学生が一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②D P、行動目標からみても内容的妥当性 成績評価では、「態度」95%、「思考判断」84%「意欲関心」85%であった。クリティカルな状態にある患者および家族の倫理的問題は、救急・クリティカルケア看護において重要な課題である。事例および実際の人工呼吸器の体験を通して、「意欲・関心」「思考判断」を達成させることに繋がったことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、全員が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそう思う」に回答しており、平均値も3.4～3.7であり、個人ワークも取り入れ、発表の場を設けており、個人の学びを共有する機会を設けており、学生の質問に対する対応ができていたと考える。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は「専門教育科目」の「看護実践の充実」に位置付けられ、選択科目である。行動目標については、概ね達成できたと考えているが、科目選択の理由から学生が主体的に学ぼうとする科目紹介を考える必要があると考える。 演習に興味関心を高めることができるような授業展開の工夫を図りたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
国際看護論	2	後期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は、選択科目である。 ②国際看護への興味・関心を持たせるために、基本的な定義・理論だけではなく、看護実践について講義内容を考えた。 ③導入は、DVDの視聴および海外で看護教育を行う難しさを自らの体験から話しを行い、文化、教育背景、政治背景が異なることが、看護教育にどのように影響をするのかを考える機会とした。また、日本との物品・備品が異なる中での看護展開の難しさと工夫の必要性について解説した。 ④本年度は、外部講師から開発途上国の現状と課題について集中講義をお願いした。貧困、感染症についてやDVDを視聴し、女性性器切除などの現状について学ぶことができていた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	国際看護論は2年後期、選択科目で22名が受講した。 1名の出席が満たない学生がいたが、ほとんどの学生が欠席することなく受講することができた。 成績の平均値は、78.0 (±5.1) 点であり、再試対象者はいなかった。全員が標準レベルに達したが、理想的レベルに達した者は9名であった。 目標別にみると、知識・理解および思考判断がやや劣る傾向にあった。得られた知識をもとに分析し自分の考えを述べることがやや劣る傾向にあった。 毎回、外部講師と相談しながら課題提示を行ったが、全員課題に取り組むことができていた。講義後には「学びカード」に講義を受けての学び・気づきを記載させたが、自分たちが恵まれた環境に生活していること、何か自分たちにできることはないかと考える学生もいた。また、女性性器切除などの講義を受け、学生は異文化について考えたり、健康問題に繋がることを学ぶことができていた。最終レポートはルーブリック評価を行った。学生は、一つの国について調べて、現状の整理、課題を見だし、看護の必要性から自己の国際看護に対する看護について述べることができていた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「看護実践の充実」に位置づけられており、選択科目である。国家試験には余り出題されない科目であるが、将来、国際看護を目指すきっかけになるとよいと考える。受講動機をみると、82.4%が「関心のある内容である」と回答しており、講義後の反応も良く内容的に妥当であったと考える。 ②DP、行動目標からの内容的妥当性 成績評価から理想的レベルに達成した者の割合も高く、内容的に妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	講義内容の理解を深めるために、課題の提示を行った。最終レポートはルーブリック評価を行った。そのため図書館およびインターネットの利用を半数以上が行っていた。 毎回講義後に「学びカード」に学び・気づきを記載して提出としていたが、真面目に学びを記載することができていた。特に、自分たちが恵まれた環境に生活していること、何か自分たちにできることはないかと考える学生もいた。また、女性性器切除などの講義を受けることはないため、学生は異文化を考えたり、健康問題に繋がることを学ぶことができていた。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、「看護実践の充実」に位置づけられており、選択科目である。他国への関心や異文化について学ぶことができたことは、これからの看護の活動の場の広がりや日本国内における外国人への関わりについても考える機会となったと考えるため、概ね達成できたと考える。 例年、受講者少なく、1年生のオリエンテーション時や講義時および掲示にてインフォメーションを行っているが、今年度も受講人数がクラスの4分の1に過ぎず、受講者が増えるようにもっとPRが必要であるとする。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	永田 賢介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
N P O 論	4	後期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	4年次の後期という、実習も終わりあとは国試を控えるのみという時期で、直接的に看護技術や知識には関係の無い内容を取り扱うため、学生の授業を受ける「動機付け」に力を割いた。 具体的には地域包括ケア等における既存の制度と地域の隙間を紹介する他、出産、子育ての経験を経て働き方を見直し、医療や看護だけでは届かない領域のケアを行うNP0としてのキャリアを選択したゲストを招いた。看護の世界では患者側の観点で、また地域社会におけるいち生活者や女性としての観点で、自分たちがこれからどのような人生を歩むかを想像させ、非営利組織の関係性を見いだせるようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「到達度自己評価」において、ほぼ全てが平均値・中央値ともに4.0前後となり、昨年度と比較しても大きく上昇した。 10項目の設問のうち4問に”自分が学ぼうとしている専門分野の…”と前置きで強調されており、直接的に看護や福祉の専門的知識を取扱うものではない本講義では工夫が難しかったが、NP0と看護の概念が接続できたと考えられる。 開講年次や時期のこともあり、授業の予習復習や課題以外の学習の負担は意図的に減らしていた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「到達度自己評価」の一定の高さからは、医療や看護の一周外側である地域や民間非営利組織が担うことができる、患者QOL向上の理解など、資格や単位取得に必修としての意義は果たせたのではないかとと思われる。 今後については、学生からも2年次や3年次に移動を希望する声も複数見られ、学生の進路選択においても、カリキュラムマップにおける再検討の余地がある。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質の評価」において、“学生の参加の機会”と“質問に答える機会”は、それぞれ4.6、4.5と非常に高い評価を受けており、高度な知識を暗記するよりも、考え方や事例を元に自分なりの言語化を行うという目標に対しては、適切なプログラムであったと捉えられる。 但し、テストやレポートなどの評価基準の明確さについては、“そうではない” “少しそうではない” が4名おり、自分の考えやコミュニケーションといった抽象的な能力を評価するためには、更に明確な基準の設定と開示の改善必要性がある。 開講年次や時期のこともあり、授業の予習復習や課題以外の学習の負担は意図的に減らしていた。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	昨年度からプログラムを見直した部分（ゲストの変更、ワークの難易度の調整）が、有効に機能したと思われる。 評価基準については、1回目の講義のオリエンテーション部分で、事例等を複数示す等の対応を行う。自分の意見や考えを持つことに模範や明確な答えがあるわけではないことを強調しつつも、納得度の高い評価を行えるようにしたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病学特論	4	後期	選択	いいえ	85

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	卒業が近い4年後期の看護学科の学生に、医療現場で応用できる疾病学の知識や医療技術を改めて解説しました。また、看護国家試験に向けた知識の整理も出来るように心がけました。自著の教科書「解剖生理と疾病の特性」を使用して、ポイントを絞って分かりやすく講義したつもりです。 授業評価アンケートの受講動機をみると、「関心のある内容である」が最も多く、次いで「資格取得に必要である」が多くみられます。看護師となって臨床現場で働く自覚や国家試験に向けた強い意識の表れと思います。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	試験の平均値は84.3点、中央値は86点でした。最高値は98点であり、理想的レベル（80点以上）に到達したひとが85名中58名でした。学生間で成績のばらつきはありましたが、全員が標準レベルには到達していると判断しました。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の項目は平均値4.4と高い値ですが、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の項目は平均値3.6と低い値です。講義の内容が知識の習得に偏り過ぎたと反省しています。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護実践の充実」に属します。1年次の「疾病学総論」と2年次の「疾病学各論Ⅰ&Ⅱ」「看護のための臨床検査」「薬理学」で疾病の病態・症状・診断・治療を学び、その後の病院実習にて実際の患者の看護を経験し、4年次に改めて医療現場で応用できる疾病の知識や医療技術を解説しました。 試験結果、受講生の到達度自己評価などからみても、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけにおいて内容的妥当性に問題はないと考えます。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、「説明は理解しやすかった」の項目は平均値4.5と高い値でした。ただ、学生参加や質疑応答の機会については評価が低い傾向にあります。このことは次年度に向けた課題と考えます。 また、学習量をみると、約2/3の受講生が30分程度の予習復習を4回以上（約1/2の受講生が6回以上）行っていました。また、図書館を利用しているひとも多く、受講生が積極的に取り組んだ表れだと嬉しく思います。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	受講生の授業に対する意欲、試験の成績、到達度自己評価などより、全員が標準的レベルに到達することができたと判断しました。 自由記述では「もっと講義時間を増やして欲しい」という意見が多くありました。科目の授業回数は決まっているので、そのなかで如何に効率よく幅広く講義をするかが次年度の課題と考えます。 また、本科目で成績が下位であった学生さんは国家試験でも得点が低い傾向にありました。そのような学生さんを授業終了後に如何にサポートするかも大きな課題です。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疫学演習	2	後期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①2年生後期の選択科目である。保健師課程の学生には必修科目である。受講動機では、「資格取得に必要である」75.0%という認識である。一方、「関心のある内容である」6.3%と低い状況から学習がスタートしたことがわかる。 ②本科目は数的理解および推察・思考・判断を求める内容であるため、受講対象が実習前の2年生であることから、授業計画において、実際の地域課題に即した授業内容を取り入れ、単純から複雑へ考察が深まるように計画した。前年度の学習成果を踏まえ、今年度も基本的展開を同一とし、受講学生の学習進行に合わせて微調整を行う展開とした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された		達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、85.4点であり、再試対象者はいなかった。標準的レベルに達した学生が93.8%であり、内、理想的レベルに達した学生は、66.7%であった。 目標別にみると、思考判断に関しては82.5%、態度に関しては99.9%であった。毎年の傾向であるが、特に本年度はスタートのモチベーションが低い状況がみられ、数的処理に関して苦手意識が強い傾向にある。講義では、地域の具体的題材を取り入れることにより、学習意欲が高まり、保健師としての専門的態度を身につける上でも学生の到達度自己評価からも効果的であったと判断できる。 学生の到達度自己評価においては、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」「学びを深めたいと意欲をもつことができた」「必要となる技術を身につけることができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」「職業選択の参考になった」が4.4以上であり、昨年度より高得点となった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」の「公衆衛生看護科目」の位置にあり、選択科目である。保健師課程選択者が受講するため、受講動機は明確であるが、開講学年が2年生後期であるため、授業内容の専門性の難易度を考慮することが重要である。 最終的な成績評価からは、理想的レベルに9割の学生が達成していることから内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 思考判断および態度に位置付けられた科目である。思考判断に関しては8割、態度はほとんどの者が達成していることから内容的には妥当であると考え。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価において、1回30分以上の準備を6回以上行った学生が65%である。課題の提供については、毎時実施していたが、全員の学生が取り組む状況でなかったことがわかる。一定の成果は出ていると評価できるが、一方で全員が主体的に取り組むことができるような仕組みを検討する必要がある。 授業の質評価においては、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに応える機会が作られていた」のいずれの項目においてもそうでないと思う等の否定的意見はみられなかった。 図書館、インターネットの利用については、7割から8割が利用している。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目の達成状況については、授業成績および授業評価アンケートより計画している状況は概ね達成できていると評価できる。 さらに授業内容を精選し、受講学生全員の達成状況が理想的レベルに達するよう検討を加えていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	檜原 真二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
地方自治論	3	前期	選択	はい	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	集中講義でかつ看護学科の学生の専門とは大きく異なるので、開講時の学生の授業準備性について示すのは困難な状況といえます。看護学科の学生にとっては、興味を抱くのが難しい科目で、少しでも興味がもてるように、また理解できるようにDVD等を用いて講義を進めました。また、講義のはじめに板書することによってこれから話す内容のポイントは何かを明確にするようにしました。自由記述では「とても分かりやすく、理解しやすかった」というコメントがあったので、ある程度、講義の目的は達成できたのではないかと考えます。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された		やや達成された	やや達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	看護学科の学生にとっては専門と大きく分野が異なるため、完全に達成されたとは言いが、「とても分かりやすく、理解しやすかった」というコメントがあったことからおおよそは達成されたのではないかと考えます。ただし、なかには「勉強の仕方がわからなかった」等という学生もあり、来年以降の課題と思っています。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	子どもの貧困の問題や限界集落さらには北九州市の超高齢化などの問題は、看護学科の学生にとっても学ぶことは必要であるといえ、内容的にも妥当であったと思います。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	専門とは大きく異なる領域であったため、昨年同様DVD等を用いたり、ディスカッションの時間を取り入れたりしたことはよかったのではないかと思います。看護学科の学生にとっては専門科目とは大きく異なるので、専門的内容等を教えるというよりも、講義内容を通じて考える力を養うことに時間を割くようにしました。この点は昨年課題とした点ですが、おおよそ改善されたのではないかと思います。「勉強の仕方がわからなかった」「何をすべきかわからなかった」という意見については、はじめていただいた意見で、来年度の講義までに改善できるように努力したいと考えています。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	専門科目ではなく、また集中講義でもあるということを考えると、ある程度、講義の目的等は達成できたのではないかと考えています。来年度は、勉強の仕方がわからなかったと指摘された点について改善していきたいと思っています。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	沖 勉

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
健康政策論	4	後期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	常々健康課題に興味をもってもらい、その課題をいかに解決していくかにも思いを馳せてほしい。 必修科目ではないはずであるが、授業のタイトルは興味をそそる部分があるのであろう。 授業の準備としては特別なことは必要ないと思う。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された	どちらともいえない	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価では、知識の習得ができ、課題検討力が付いたと評価している人が多い。 授業内容の確認やグループワークでインターネットを使うことが多かったと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	地域診断から出てきた課題を自治体の行政課題としてどう展開していくかを伝えたい科目である。 地域診断の復習・整理にも役に立っていると思われ、内容としては妥当と思う。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	保健師の国家試験を見ると、データ等から課題を見つける出題も見られる。もう少し、データ等を授業中に示し、意見を求めながら授業を進めることも取り入れていきたい。 配布資料の字が小さく見えずらいとの意見をいただいたので、スライドはA4の紙に2スライドとしたい。（印刷のやり方で4スライドを1ページに入れ、枠いっぱいとする方法もあるのだが・・・・）また、スライドの字は出来る限り大きくしたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	課題を探り出す力やその課題を解決していく力がより身に付くように、授業中に意見を求めることを重視していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護技術論	2	後期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①当該科目は、保健師課程のなかで、公衆衛生看護の方法と技術を教授する科目である。学生の準備性として求められることは、看護専門科目<看護実践と応用科目群>の母性・小児・成人・老年看護学領域の概論の知識を取得していることである。すなわち、対象特性・発達と起こりやすい健康問題に関する基礎知識が必要である。しかし、現行カリキュラムでは、同時期にそれらの科目が開講されるため、学生の準備性が不足していることを前提に授業を進める必要があった。具体的には、関連科目のシラバスで進捗を確認しながら、予習課題の提示内容をタイムリーに提示するなどの工夫を行った。 ②受講動機をみると「必修科目である」61.1%、「資格取得に必要である」61.1%が高く、保健師課程の必修科目であることが反映していると考えられる。 一方、「関心のある内容である」11.1%と前年度の20.0%から低下した。前年度は、保健師課程以外の学生が選択科目として受講した者が4名（22名中4名）いたため、関心を持って選択履修していたが、今年度は、保健師課程学生のみであったため、低下したと考えられる。これらの学生が、参加型授業により関心を高めて履修できるよう工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①最終的な成績の平均値は78点であり、昨年度77点とほぼ同点であった。再試対象は0名。全員が標準的レベルに達し、理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達したものは9名（全18名中50%）で昨年度より10ポイント上昇した。 ②観点別評価の達成度（客観的）に見ると、知識理解及び思考判断に関する評価方法では、試験、グループ発表及び質疑応答を通して79.6%（前年比13ポイントアップ）し、参加型授業による達成度の改善がなされたと推測される。思考判断では、事例の情報収集、健康課題のアセスメントを行い、解決のための看護の方法と技術を判断できるかを問うものであったが、前年度の改善点をふまえ、未履修の知識についても補足して考えることができるよう授業の組み立てを工夫した。従って、前年度の「思考判断」は前年度、「やや達成」から「達成」へと評価を変更した。 課題発表を通しての関心意欲及び態度では評価基準を変更したため、前年度の100%から84.4%へと低下している。③学生の「学習到達度の自己評価」では、平均点が最も高かった項目が、前年度では、1項目「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（Av4.2、Me4.0）から、同点で「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいという意欲を持つことができた」の2項目があがった。授業の工夫を行ったことで、学生自身の思考力と意欲のポイントがいずれも増加したことが明らかになった。②の客観評価結果との整合性もとれていると考えられる。 ④授業時間外の学習時間の確保として、図書館での文献や雑誌（前年度68.1%→今年度77.8% 9.7ポイントアップ）、学術データベース（27.2%→61.1% 33.9ポイントアップ）及びネット検索（68.1%→83.3% 15.2ポイントアップ）の活用がなされており、また半数以上の学生が複数回予習復習を行っていた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①カリキュラム体系における当該科目の順序性の問題点は前年度記載した通りであるが、新カリキュラムまで、まだ数年かかるため、今年度、現状の中でどう工夫するかを試行錯誤した結果、認知領域及び情意領域の評価項目が改善されたことが明らかになった。 ②DP、行動目標からみても内容的妥当性 保健師国家試験科目であり、学生の授業に臨む姿勢は真摯であり、自己評価で高い項目は、「職業選択の参考になった」、専門分野に対して「的確に判断する力」「学びを深めたいという意欲」であった。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今年度、授業の方法を参加型授業へと工夫したところ、学生の発言が多くみられるようになった。そのこともあり、学生が充分に意見を出し合えるようにしたいと思ったことから、授業時間を過ぎてしまうことも数回あり、「時間オーバーしすぎて困る」との自由記載があったことは反省点である。時間内での効果効率的な授業運用を次年度は課題としたい。また、参加型授業にしたため、前年度よりも課外の自己課題が若干増えている。自由記載では「課題におわれた」との意見があった。結果的には、試行判断力や意欲の向上を学生が自己評価していたため、授業のオリエンテーションで課題のねらいと説明することが必要だと思う。次年度に生かしたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
対象別保健指導論	2	後期	選択	いいえ	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は選択科目で、保健師課程の学生は必修である。そのため、履修動機は「必修科目である」26%「資格取得に必要である」43%であるが、看護師課程の学生も14名選択してくれたため、主体的な受講動機があった。保健・予防の視点で医療を考えたり、病院看護職と地域の看護職の連携を考えたりすることは、これからの看護にとって必要不可欠である。今後も、より多くの看護師課程の学生に履修していただきたいと願っている。 授業内容は、15回授業を「健康課題別」「ライフステージ別」の2つに区切って解説した。地域保健活動は、対象のライフステージや健康レベルがさまざまであり、間接的な援助方法を用いるためイメージしにくい。そのため、教科書は予習復習に使い、講義はオリジナルのレジュメと、毎回、保健師ジャーナルから事例を準備した。授業評価では、「授業の進め方とプリントがあっていきなくてわかりづらい」という意見があったが、学習評価では「プリントを見直した」という意見があり、ポイントを復習するためには有効であったと考える。授業の進め方を考慮していきたい。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	やや達成された		達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	科目成績は、平均点70.3点、「秀」0人、「優」2人、「良」15人、「可」15人であり、定期試験で再試験者は出なかった。昨年と同レベルの試験問題だが、今回、「秀」の学生がおらず、平均点で9点下がってしまった。 対象別保健指導論は、健康課題を顕在化しているものだけでなく潜在化しているものも考えなければならず、1対1の対応だけでなく、「多面から捉える」「組み合わせで問題解決する」ことが求められる。授業評価の到達度評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方をえることができた」が最も高くなっていることから、科目の本質については考えられていたのかもしれない。 授業の質評価では、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表する、などの学生参加の機会がつけられていた」が、他の項目より高い。毎回、小グループでワークシートをもとにディスカッションする時間を作っていたが、「少しそうでないと思う」まあまあそうだと思うの学生もあり、ディスカッションへの参加度に差があったことが伺われた。ディスカッションに参加し、視点の広がりを得られるように改善していきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は地域保健活動の方法論である。あらゆる年代、あらゆる健康レベルを対象とした健康上の課題を捉え、個別・集団・地域のアプローチを組み合わせる支援する内容である。基礎となる知識は、多岐にわたっている。各看護学の保健の部分に加え、健康科学や社会学も必要であり、それらをもとに「思考判断」し、社会の動きを常に学び続ける「意欲・関心」を持ち、保健・医療・福祉の領域と連携する「態度」を養う科目である。 保健師国家試験を視野に入れた内容を実施したので、保健師課程の学生に加え看護師課程の学生も14名受講していたが、2年後期ではかなりの難易度だったと思う。いくつかの課題を提示したものの、「授業課題以外に学習に取り組みましたか」では「取り組んだ」と答えた受講生は少なかった。自主的に学ぶことが習慣づけられなかったのが残念である。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価の「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会がとられていたか」の質問で、3.8ポイントにとどまった。前述したように、ディスカッションの参加度をあげるように興味を引き、視野を広げる取り組みをしてきたい。 授業後半に、是非学習してほしい内容を20項目、授業のテーマごとにまとめて渡した。試験前に自己学習して質問に来る学生が多かったが、質問に来ない学生が定期試験の結果も不出来であった。これらを自己学習に任せていたが、主体性を引き出すことができなかった。全員に対象別保健指導論を理解してもらうために、習熟度を確保できるような方法をとることも必要かもしれない。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は保健師資格のための学習であることから、方法論を解説するだけでなく保健師ジャーナルで公衆衛生看護で先駆的な活動例を紹介した。保健師ジャーナルは、専門雑誌であるため学生には難しい内容である。授業の最初の何回かは、取り組みの内容を理解するためワークシートを用意し、ポイントを説明しながら読んでいった。学生は保健師専門雑誌にある活動の実際に興味を示し、授業の後半になると、最低限の解説で内容を理解した。また、「授業参加のために30分以上の準備をどのくらい行いましたか」「授業参加のために30分以上の復習をどのくらい行いましたか」では、0回と答えた学生が少なく、どちらも半数以上が3～6回以上の予習・復習をしていた。保健師過程の必修、看護師課程の選択科目を受講した学生であるため、学習意欲が高いように感じる。授業内容を充実させて、学生の満足いく授業にしていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護管理演習	4	後期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	4年生後期の選択科目である。保健師課程の学生には必修科目である。受講動機では、「必修科目である」88.2%、「資格取得に必要である」35.3%であり、「関心のある内容である」を選択した学生はいない。受講開始において、公衆衛生看護管理に対する理解が低い状況が伺える。 本科目は、保健師課程実習前に2コマ開講し、終了後開講する計画で実施している。実習での事象を想起しながら、公衆衛生看護管理としての学習を計画している。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、92.3点であり、再試対象者はいなかった。全員が理想的レベルに達した。 目標別にみると、思考判断に関しては88.4%、意欲関心に関しては98.8%、態度に関しては100%、技能表現に関しては96.8%であった。学習成果としては、目標は達成できたと考える。 学生の成績評価においては、科目の目的を達成できたと評価できるが、学生の到達度自己評価においては、最終学年の科目であることを鑑みると、全項目においての評価平均が3.4～3.7点であることは、やはり低いと判断するが、前年度の3.2～3.69点に比較すると微増している。今後の本科目の意義を含め学習方法の検討が進めていく。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP・CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」の「公衆衛生看護科目」の位置にあり、選択科目である。保健師課程選択者が受講するため、受講動機は明確であるが、開講学年が4年生後期であるため、卒業後の新人保健師育成から管理的視点にいたるまでの授業内容を計画している。 最終的な成績評価からは、全員が理想的レベルに達成しているため、内容的には妥当であると考えられるが、学生の学習意欲を高める授業展開の検討は、今後も必要である。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業方法の展開において課題の提供について、前年度の結果を踏まえ、学生の実習での成果状況を踏まえ、個々の学生にあわせ、題材を提供する形で講義を展開したところ、前年度より講義内容に関心をもち、成績の結果にもその状況が反映していると考えられる。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目の達成状況については、全員の学生がDPの目標を理想的レベルで達成できている。 前年度の結果として、保健師課程を選択している学生は、他学生より国家試験の準備にかかる時間が短いことがあせりとなり、後期に開講する授業の参加状況が消極的となりがちである。特に看護師国家試験合格を第一優先と置く場合に顕著にその状況がみられる。本科目の学習意義の理解と、4年生後期の対応について検討をすすめ、学生が主体的に学習できる環境を検討することとした。その結果、個々の学生にあわせ、題材を提供する形で講義を展開したところ、前年度より講義内容に関心をもち、成績の結果にも一定の成果がみられた。今後もこの取組については積極的に進めていく。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
学校保健	2	後期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、看護学科の専門科目であり、養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目でもある。学生は、資格取得に必要な科目と全員が認識していた。 この科目は、学習内容が多い。そのため、事前課題を中心にポートフォリオ作成を指導している。また、学生に発表や討論で、知識理解を深めるような場を設定している。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	どちらともいえない	達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績としては、70.3 (±7.3) 点であり、再試験当者はいなかった。 目標別にみる達成度は、知識理解が65%で「どちらともいえない」、その他の項目、思考判断が81%、意欲関心93%で「達成された」であった。 学生の「学習量の評価」は、事前課題があることで予習に全員取り組んでいた。復習については、67%の学生が6回以上取り組んでいたと回答している。 学生の「到達度評価」における平均値は4.0～4.1であった。とくに低い項目はみられなかった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①カリキュラムマップの位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は看護学科の「専門教育科目」であり、教職に関わる科目でもある。養護教諭を志望する学生が受講する。養護教諭の職務に関わる中心的な科目である。知識理解の面では課題は残るが、概ね内容的には妥当と考える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からみると、知識理解の達成度は低い、その他の発表や討論は前向きに実践し、ポートフォリオの作成などの成果物からみて内容的には妥当であると考ええる。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性に問題はないと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の「授業の質評価」は、3.9～4.2であり、とくに低い項目はみられない。
「情報利用」のシラバス活用については利用していたが、さらに利用について学生が計画を立てるように促したい。
「図書館の利用」について、全項目75～100%と多くの学生が利用していた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

2年次の専門教育科目であり、教職に関わる科目で、養護教諭の職務の中心となる科目である。この科目は、学校保健活動の基礎的な知識理解が重視されるが、学習内容が多いため、知識理解の面に関しては、繰り返し学習していくことが必要になる。
以上のことから、今後、さらに知識理解を深めるために必要な課題等について検討していきたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
養護概説	2	後期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、看護学科の専門科目にあたるが、養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目でもある。学生は、資格取得に必要な科目77.8%、必修科目22.2%と認識していた。 この科目は、学校保健後の履修が望ましい。しかし、看護学科のカリキュラムから、学校保健と同時期の履修となる。そのため、学校保健の進行を考慮しながら授業を進行している。また、事前課題を中心にポートフォリオ作成を指導している。概説の内容が中心であるが、知識習得につながるための演習も取り入れている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	どちらともいえない	達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績としては、72.2(±8.4)点であり、再試験当者はいなかった。 目標別にみる達成度は、知識理解が54%で「どちらともいえない」、その他の項目、思考判断が81%、意欲関心78%で、技能表現が87%で「達成された」であった。 学生の「学習量の評価」は、事前課題があることで予習に全員取り組んでいた。復習については、78%の学生が6回以上取り組んでいたと回答している。 学生の「到達度評価」における平均値は3.9～4.1であった。とくに低い項目はみられなかった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①カリキュラムマップの位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は看護学科の「専門教育科目」であり、教職に関わる科目でもある。養護教諭一種免許状資格に関わる中心的な科目である。養護教諭を志望する学生が受講する。知識理解の面では課題は残るが、概ね内容的には妥当と考える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からみると、知識理解の達成度は低いが、その他の発表や演習は前向きに取り組み、ポートフォリオの作成などの成果物からみて内容的には妥当であると考ええる。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性に問題はないと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の「授業の質評価」は、3.9～4.1であり、とくに低い項目はみられない。
「情報利用」のシラバス活用については利用していたが、学生が計画的に授業を受講するように促したい。
「図書館の利用」について、全項目、89%の学生が利用していた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

2年次の「専門教育科目」であり、教職に関する科目で、養護教諭の職務の中心となる科目である。この科目は、学校保健活動の基礎的な知識理解と、その知識を用いて応用できる力が必要になる。
以上のことから、同時期の学校保健の知識の定着化を図ること、養護概説の基礎知識を活用できるようなワークシートを検討していきたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育原理	1	後期	選択	はい	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教職をとる学生が始めて学ぶ科目であるため、教育に対する関心及び基礎的な思考力を育てることを目標とした ②受講動機は基本的に教職課程の必修科目であるため、基本的に学生は真面目に受講していたが、講義は全学科共通のため120人という規模なので一部からは私語が気になるという声も聞かれた。将来的に教職に就く人間を育てるのであるから自主的に私語を控える姿勢を身につけさせることを意図し、そのことについて叱責はせずに静寂に至る状況づくりに腐心し、自律性の涵養につとめた。 ③ディスカッションなども採り入れて、参加度を高める工夫もした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	試験成績の平均は79.6であり、全体の平均点75.5を4.1ポイント上まわる高い数値である。理想的と言える80点以上の学生は26名中15名(57.7%)に達した。記述式の試験をおこなったので、この数値は期待した知識理解に関してじゅうぶん目標の水準に達しており、目標は達成されたと言えるのが妥当だと言える。 学生の自己評価でも、各項目に於いて「まあまあそうだと思う」以上にほとんどの学生が「わりに」「かなり」に記入した学生は「まあまあ」と書いた学生を倍以上、上まわっている。その平均値は3.5～4.0であり、学生の達成感も高い。全体に「達成された」という評価が妥当であると言える。私語は非常に少なくなり、自立的な学びの態度は目標に達したと言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職科目であるため、受講動機も全員が資格取得のためと記しているが、「関心のある内容」を3名ほどがあげており、これは教職に対する関心を示したものである。看護学科の過密なカリキュラムの中での教職課程の履修であるから、学生にとっては大変であるが、カリキュラム上の位置づけは妥当であろう。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に
お示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、
インターネット利用」学生の意見など

授業評価については3.6～3.9の評価ではあったが、さらにわかりやすい授業を目指して改革を進めたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

知識の修得についておおむね達成できたが、さらに理解しやすい授業にするべく工夫を加えてみたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	教職課程科目であるため、全体的に学生の受講動機のレベルは高いと考えられる。ただし、履修人数制限のある学科に比較すると学修への動機付けが高まっているとはいえない。 高校看護1種免許希望者は将来学級経営にかかわる可能性が高いので、本講義の内容を学校組織という視点からとらえなおすことができるように工夫を行った。養護教諭希望者も含め、特に地域や仲間集団のような教員から見えにくい領域に目を向けてもらえるよう心がけた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	ここ数年、看護学科の平均点は低く（昨年度は平均が60未満）、不合格者数も多いという結果が続いていた。特に、大問Ⅰのような知識理解を中心とする設問から定着していない点が大きな問題であった。 そこでプリントを作成し、授業で活用することで基礎基本の理解と定着を図った結果、学科平均点が75.9（全体平均69.3）と前年度から15ポイント以上向上した。不合格者数も減少し、学科全体として達成度が高まったと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職科目であるため、学科DPと直接連動する部分は少ないが、看護技能を生かした専門的職業に求められる資質能力の一部を構成する科目である。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の目標達成状況を見ると授業改善の方向性としては間違っていないと考える。秀の割合もあと少しで3割を越えるので、成績上位者の層を厚くしていけるよう、より発展的内容にも取り組みたい。 学生にとって自己の体験と比較しやすい分野（児童期の仲間集団経験など）と比較し、そうではない分野（社会的発達概念と社会化論の関連など）は理解度が低かった。前年度の反省を踏まえ、この領域に関するプリントを作成し、それを活用した結果、ある程度の向上が認められた。 本授業ではこの部分が導入に相当するため、教育心理学など隣接学問を援用する等工夫を行ったが、興味関心の点で工夫の余地があると考え。教師の立場から一旦離れて教育現象を理解するアプローチに慣れてもらうため、これまで以上に事例検討や統計データとの照合など、先入観を問い直す具体的教材を工夫したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	今回の結果3学科中看護学科が最もよい成績であった。この傾向を継続していけるよう動機付けレベルでも、教材や方法の工夫の面でも努力していきたい。特に養護教諭、高校看護教諭として教育社会学の知見をどう生かすかという観点から授業を組み立てていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育課程論	2	後期	選択	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教育課程論は前期に教職概論を受講した学生が教職への道を一步踏み込む科目になる。教員として知っておくべき諸課題についての基礎理論および新しい動向などについて教師のまなざしで見ることが出来る資質の習得を心がけた。 ②既に教職への関心を深めている学生なので、具体的な資料に基づいて思考を磨くことを試みた。 ③チームで考えるという場面も採り入れて新しい学びのやり方をさせてみた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は85.9であり、この科目の平均値の83.6を2.3ポイント上まわっている。理想的な水準と思われる80点以上には13人中12人が該当し、残る1人も78点であった。さらに5人が90点以上であり、非常に良かったと思う。 学生の到達度自己評価は3.5～3.8と安定している。中央値はおおむね4.0に集中しており、学習成果には満足しているようだ。図書館の利用者も数名おり、学修意欲は総体的に旺盛であったと言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機は全員が「資格取得のため」であり、教職科目としてカリキュラムの中に位置付いている。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「授業の質評価」では半数以上が「わりに」「かなり」に記入していた。しかし、「自己評価」ではコミュニケーションや表現力に難を示す学生がいたので、表現活動を促す方向での改善を計りたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

教職課程の具体的な内容に入っていく科目なので、リアリティを持たせる授業改革をしていきたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	看護学科
氏名	大黒 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育相談（カウンセリングを含む。）	2	後期	選択	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施にあたり、大切にしていること：教科書的に教育相談の基礎知識を与える事も大切である。しかし、それだけではなく、より実践的な内容の授業にしたかったので、私がスクールカウンセラーという仕事を通して学んだ事、子どもや保護者の現状、現場職員の様子などを伝えるように心がけた。したがって、演習問題の中に事例も多く含み、講義を聞くだけの授業ではなく、「考えさせる」授業を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学習到達度自己評価の結果を見ると、最も高い項目は、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つ事ができた」で、3.9～4.4ポイントで、中央値を上回る得点だった。これは去年の平均点を上回るものだった。インターネットを使った授業は行わなかったものの、自由記述の中には、「関連する本を読んだ」「復習をするようになった」といった、自発的、積極的に学習を行う生徒もいた。また、学習量の評価として、「ボランティア活動で高校生と触れ合う」学生もあり、教育相談についてより積極的に理解しようとする態度を形成していた。思考判断については、授業内で事例検討を行い、「もしあなたが養護教諭として保護者から相談を受けたら、どのように対応するか」といった演習問題を行い、養護教諭としての判断力を向上させる取り組みを行った。その演習については学生のほとんどが、中学校や高校の現状を知らない為に、大変役に立ったという意見を頂いた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機を見ると、資格取得の為に必要であると回答している生徒がほとんど(76.9～90.9%)である。そのことから、この講義の重要性が伺える。いじめや不登校、非行問題等、学校内では様々な問題が起こっており、養護教諭を目指す学生はこの講義を受ける事によって、学校の現状を知ることができるよう工夫した。以上のことから、内容的妥当性には問題ないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価について、「テスト、レポート、提出物などの評価基準が明らかではなかった」という項目が、去年は平均点3.5だったが、今回は4.0とポイントが上がった。新たな取り組みとしてテストについては明確に学生へ提示した結果だと考えられる。また今回は模擬テストなども作成した。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

教育相談の授業では①基礎知識の獲得、②応用力（事例解決の思考判断）、また③実技（カウンセリング能力）を学ばなければならない。受講する学生が多いので③の実技については思う様に時間が取れていないのが現状である。次年度は、カウンセリング能力を向上させるために、ロールプレイやカウンセリングの練習の時間も作りたいと思う。また、インターネットを使ったりサーチや、ワークも盛り込みたい。